貝塚市埋蔵文化財調査報告　第77集

貝塚市遺跡群発掘調査概要31

2009.3.31

貝塚市教育委員会

はじめに

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、北西は大阪湾に面し、東南は和泉葛城山を有する山間部であり、北西から南東に長くのびる地域形状を呈しています。

今日、私たちの暮らしを取り巻く環境は、開発とともに発展してきましたが、急速な開発によって地下に眠る埋蔵文化財は消滅の危機に瀕しています。

埋蔵文化財は、私たちの歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない貴重な情報を提供してくれます。私たちはこの貴重な情報を記録保存することにより将来の文化の向上発展に活かしていく必要があります。

近年、文化財を活用する取り組みが盛んに行われています。埋蔵文化財においてもこれまで蓄積してきた情報や資料の活用を図り、普及啓発に努めていきたいと考えています。

本書は、平成20年度中に実施いたしました緊急発掘調査の成果報告です。住宅建築等に伴い、事前に実施した発掘調査であり、市域の歴史、文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導、ご協力を賜りました関係各位に対し、深く感謝するとともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願い申しあげます。

平成21年3月31日

貝塚市教育委員会

教育長　西　敏明

例　　言

1．本書は貝塚市教育委員会が平成20年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。なお、遺物整理等の都合から一部、平成19年度調査についても掲載している。

平成19年度に実施した長楽寺跡の調査については、国庫補助金を受けて遺物整理等を行い、概要報告を掲載している。

2．発掘調査は平成20年４月１日より実施し、平成21年３月31日に終了した。調査は三浦基、上野裕子、木嶋崇晴が行った。

3．本書の執筆・編集は木嶋崇晴が行った。

4．出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。

5．本書の第３章においては、貝塚市教育委員会が平成５年および平成６年に国庫補助金を受けて実施した埋蔵文化財緊急発掘調査について、概要報告書に一部掲載できなかった調査を掲載している。

凡　　例

1．図５～18の調査図面については、調査地位置図は縮尺１/5000、方位は座標北を上に統一している。また、調査区位置図の方位は磁北を示す。

2．本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帳』1990年度版を用いた。

3．貝塚市遺跡分布図については、貝塚市域に限定し、山間部の一部は掲載していない。

目　　次

はじめに
例　　言、凡　　例
目　　次（本文目次、挿図目次、図版目次、表目次）

第１章　平成20年発掘調査の概要 …… 1
第２章　調査の成果 …… 6

１．遺跡範囲外　2008－15区 …… 6
２．加治・神前・畠中遺跡　2008－29区 …… 6
３．地蔵堂遺跡　2007－62区、2008－８区、2008－５区 …… 7
４．積善寺城跡　2007－63区 …… 9
５．麻生中遺跡　2008－16区、2008－22区 …… 9
６．堀秋毛遺跡　2008－19区 …… 12
７．沢西遺跡　2008－14区 …… 13
８．名越遺跡　2007－54区 …… 14
９．森Ｂ遺跡　2008－28区 …… 14
10．三ヶ山西遺跡　2007－57区 …… 16
11．木積観音寺跡　2008－４区、2008－９区 …… 16
12．沢城跡　2008－17区 …… 17
13．長楽寺跡　2007－58区 …… 20

第３章　平成５年・平成６年の調査 …… 28

挿図目次

図１　貝塚市遺跡分布図
図２　調査地位置図
図３　調査地位置図
図４　調査地位置図
図５　2008－15区
図６　2008－29区
図７　2007－62区・2008－８区
図８　2008－５区
図９　2007－63区
図10　2008－16区・2008－22区
図11　2008－19区
図12　2008－14区
図13　2007－54区
図14　2008－28区
図15　2007－57区
図16　2008－４区・2008－９区
図17　2008－17区
図18　2007－58区（１）
図19　2007－58区（２）
図20　2007－58区（３）
図21　2007－58区出土遺物
図22　調査地位置図　（平成５年・６年）
図23　調査地位置図　（平成５年・６年）
図24　調査地位置図　（平成５年・６年）

図版目次

図版１　遺跡範囲外（2008－15区）
加治・神前・畠中遺跡（2008－29区）
１．2008－15区　完掘状況（西より）
２．2008－29区　完掘状況（北より）
図版２　地蔵堂遺跡（2007－62区・2008－５区）
１．2007－62区　完掘状況（北より）
２．2008－５区　完掘状況（東より）
図版３　地蔵堂遺跡（2008－８区）
１．2008－８区　調査区１　完掘状況（南より）
２．2008－８区　調査区２　完掘状況（東より）
図版４　積善寺城跡（2007－63区）
堀秋毛遺跡（2008－19区）
１．2007－63区　完掘状況（北より）
２．2008－19区　完掘状況（東より）
図版５　麻生中遺跡（2008－16区）
１．2008－16区　調査区１　完掘状況（北より）
２．2008－16区　調査区２　遺構検出状況(西より)
図版６　麻生中遺跡（2008－22区）
１．2008－22区　調査区１　完掘状況（東より）
２．2008－22区　調査区２　完掘状況（東より）
図版７　沢西遺跡（2008－14区）
名越遺跡（2007－54区）
１．2008－14区　完掘状況（西より）
２．2007－54区　完掘状況（南より）
図版８　森Ｂ遺跡（2008－28区）
１．2008－28区　調査区１　完掘状況（西より）
２．2008－28区　調査区２　完掘状況（西より）
図版９　三ヶ山西遺跡（2007－57区）
木積観音寺跡（2008－４区）
１．2007－57区　完掘状況（西より）
２．2008－４区　遺構検出状況（南より）
図版10　木積観音寺跡（2008－９区）
１．2008－９区　SD－１断面（西より）
２．2008－９区　第２面　遺構検出状況(北より)
図版11　沢城跡（2008－17区）
１．2008－17区 完掘状況（南より）
２．2008－17区 SK－１土器出土状況（東より）
図版12　長楽寺跡（2007－58区）
１．2007－58区 調査区１ 遺構検出状況(北より)
２．2007－58区 調査区１ SD－1完掘状況(南より)
図版13　長楽寺跡（2007－58区）
１．2007－58区 調査区２ 遺構検出状況(西より)
２．2007－58区 調査区２ 完掘状況（東より）
図版14　長楽寺跡（2007－58区）
１．2007－58区 調査区２～４ 全景（北より）
２．2007－58区 調査区２ 完掘状況（北より）
図版15　長楽寺跡（2007－58区）
１．2007－58区 調査区２ SD－58完掘状況(西より)
２．2007－58区 調査区２ SD－58断面（東より）
図版16　長楽寺跡（2007－58区）
１．2007－58区 調査区２ SD－58･60検出状況(北より)
２．2007－58区 調査区３ SD－60断面（西より）

表目次

表１．平成20年国庫補助事業一覧
（平成20年１月～12月）
表２．平成５年・平成６年国庫補助事業一覧

第１章　平成20年発掘調査の概要

平成20年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は283件、遺跡外試掘調査依頼は17件である。
届出及び通知の総件数および依頼の件数は、昨年に比べ大きく減少している。不況等の社会情勢を反映しているものと考えられる。

分譲住宅の件数は増加傾向にあり、その要因としては、森下代遺跡、沢西遺跡、沢遺跡、半田遺跡等において過去に行われた宅地造成地に分譲住宅の建設が継続して行われているためである。

個人住宅の届出件数は、78件であり、昨年と比較してほぼ横ばいであるが、数年前より個人住宅の届出件数は減少を続けており、特に平成20年後半の届出件数は激減している。

住宅以外の開発は、宅地造成８件、共同住宅６件、店舗９件である。共同住宅や店舗は前年と比較して増加しているが、宅地造成は減少している。

また、個人住宅や共同住宅において地盤改良や柱状改良等の耐震工事を行う件数は増加傾向にある。さらに最近の傾向として、土壌汚染による広範囲の土の入れ替えなどが行われるようになり、さらなる埋蔵文化財の破壊が懸念される。

遺跡範囲外においての開発は17件であり、前年に比べ減少している。その目的は宅地造成７件、共同住宅１件、工場０件、病院および老人ホーム３件、店舗２件、個人住宅２件、その他２件である。遺跡範囲外での開発は、前年に比べ減少しており、特に工場の建設が０件と廃業した工場が宅地化するなど、製造業の苦境がみてとれる。

届出・通知にかかわる対応について、確認調査は40件、立会調査は100件、慎重工事は139件、府にて対応は３件である。このうち個人住宅の建設に伴う調査は14件である。

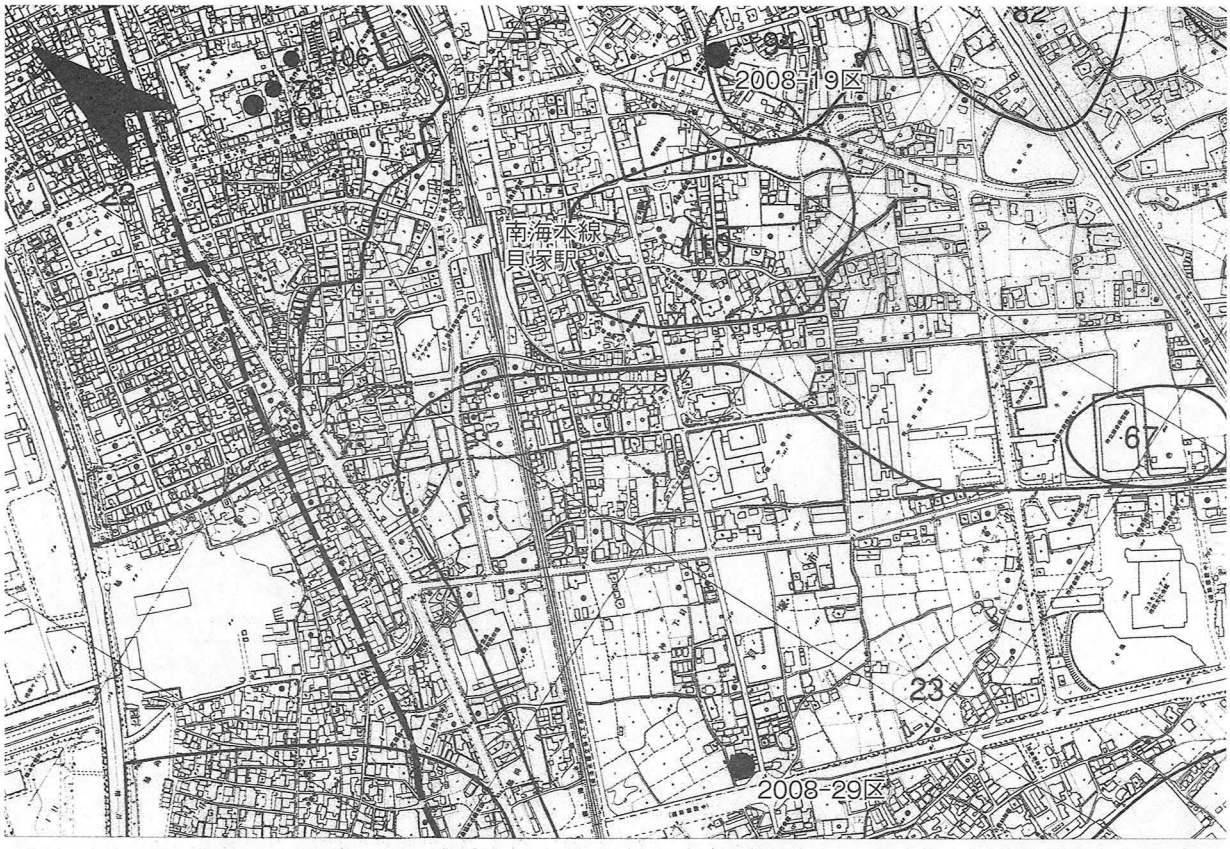
今年度の遺跡範囲の拡張は、地蔵堂遺跡と高井天神廃寺・高井城跡において行った。新規の遺跡発見については、今年度はなかった。

	遺跡名	調査番号	遺跡略号	開発地
	(平成19年度)			
1	名越遺跡	2007－54	NG	清児534－2
2	三ヶ山西遺跡	2007－57	MYN	三ツ松1455－9、1464－5の一部
3	長楽寺跡	2007－58	TRJ	脇浜662
4	地蔵堂遺跡	2007－62	GZZ	地蔵堂258－1
5	積善寺城跡	2007－63	SZJ	橋本137
	(平成20年度)			
6	木積観音寺跡	2008－4	KKD	木積1976－2の一部、1976－3の一部
7	地蔵堂遺跡	2008－5	GZZ	堤51－17、51－18の一部
8	地蔵堂遺跡	2008－8	GZZ	地蔵堂273－2の一部
9	木積観音寺跡	2008－9	KKD	木積2001の一部
10	沢西遺跡	2008－14	SN	沢140－3
11	遺跡範囲外	2008－15	0000	久保210－10、216－2、半田1072－19、1073
12	麻生中遺跡	2008－16	AN	麻生中1005－15
13	沢城跡	2008－17	SJ	沢1294－1の一部
14	堀秋毛遺跡	2008－19	HA	海塚16－1
15	麻生中遺跡	2008－22	AN	麻生中1005－10、1005－11
16	森B遺跡	2008－28	MB	森317－1の一部、317－6
17	加治・神前・畠中遺跡	2008－29	KKH	加神1－170－1、481－4

表１　平成20年国庫補助事業一覧（平成20年１月～12月）

1. 沢新出遺跡　2. 沢海岸遺跡　3. 沢遺跡　5. 長楽寺跡　7. 地蔵堂丸山古墳　8. 地蔵堂廃寺　9. 下新出遺跡　10. 秦廃寺　15. 麻生中新池遺跡　16. 河池遺跡　17. 水間寺遺跡　18. 木積観音寺跡　20 堀遺跡　21 橋本遺跡　22. 貝塚寺内町遺跡　23. 加治・神前・畠中遺跡　24. 明楽寺跡　25. 沢共同墓地遺跡　26. 沢西出遺跡　27. 沢海岸北遺跡　28. 沢城跡　29. 新井・鳥羽遺跡　30. 新井ノ池遺跡　31. 半田遺跡　32 麻生中遺跡　34. 澱池遺跡　35. 積善寺城跡　36. 清児遺跡　37. 集原池遺跡　38. 高井天神廃寺・高井城跡　39. 森城跡　40. 森B遺跡　41. 森ノ大池遺跡　42. 森A遺跡　43. 二ツ池遺跡　44. 千石堀城跡　45. 水間墓地　46. 三ケ山城跡　47. 片山墓地　51. 窪田遺跡・窪田廃寺　53. 坊城遺跡　54. 三ツ松遺跡　55. 槍ヶ谷城跡　56. 半田遺跡（清児地区）　57. 堤遺跡　58. 小瀬五所山遺跡　59. 石才遺跡　60. 王子遺跡　61. 土生遺跡　64. 海岸寺山遺跡　66. 脇浜遺跡　67. 今池遺跡　68. 三ヶ山遺跡　69. 三ヶ山西遺跡　70. 石才南遺跡　71. 名越遺跡　72. 地蔵堂遺跡　73. 名越西遺跡　74. 木積遺跡　75. 新井・鳥羽北遺跡　78. 沢西遺跡　79. 王子西遺跡　80. 津田遺跡　81. 三ヶ山オニ谷遺跡　82. 福田遺跡　83. 森下代遺跡　84. 三ツ松北垣外遺跡　85. 薬師池西遺跡　86. 麻生中出口遺跡　87. 小瀬遺跡　88. 堤三宅遺跡　89. 沢新開遺跡　90. 沢タナジリ遺跡　91. 堀新遺跡　92. 橘池遺跡　93. 麻生中下代遺跡　94. 堀秋毛遺跡　95. 半田北遺跡　96. 沢老ノ塚遺跡　97. 東遺跡　98. 馬場遺跡　100. 鳥の池西遺跡　101. 白地谷遺跡　102. 津田北遺跡　103. 久保遺跡　108. 水間二ノ戸遺跡　109. 窪田ハマデ遺跡　110. 海塚遺跡　111. 脇浜川端遺跡　112. 馬場笹力遺跡　113. 橋本野岸ノ下遺跡　114. 麻生中薬師堂遺跡　115. 谷池遺跡　116. 小瀬大道端遺跡　117. 石才通井口遺跡　118. 海塚宝伝遺跡　119. 小瀬与九郎遺跡　120. 王子大イケダイ遺跡　121. 王子ヨウサ遺跡　122. 半田ヨコマクラ遺跡　123. 堤西浦遺跡　124. 木積下代遺跡　125. 橋本原宮遺跡

図1　貝塚市遺跡分布図（部分・貝塚市域のみ）


2008-19区
南海本線
貝塚駅
67
23
2008-29区

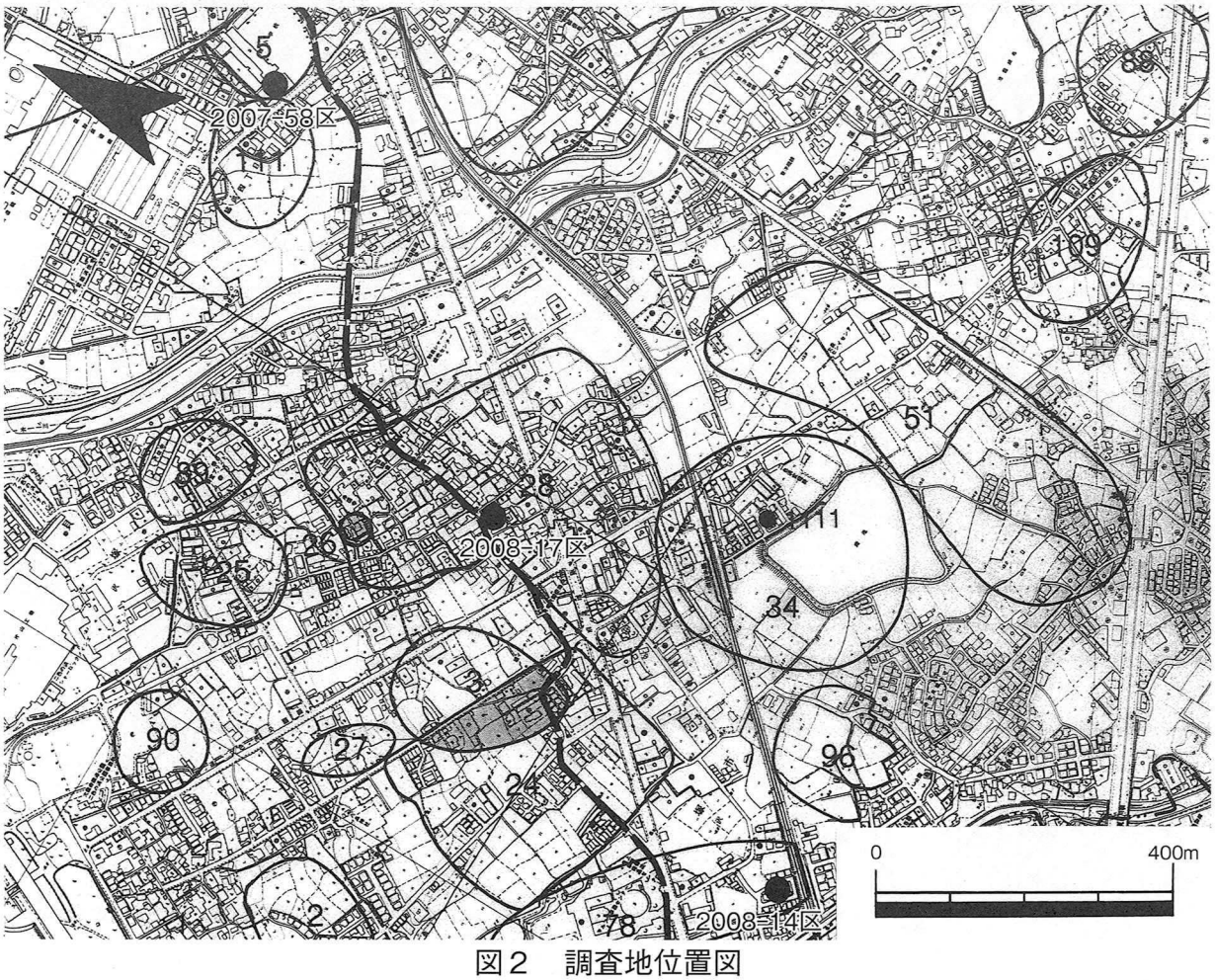

5
2007-58区
109
51
39
28
26
2008-17区
111
25
34
90
27
96
2
78
2008-14区
0
400m

図２　調査地位置図

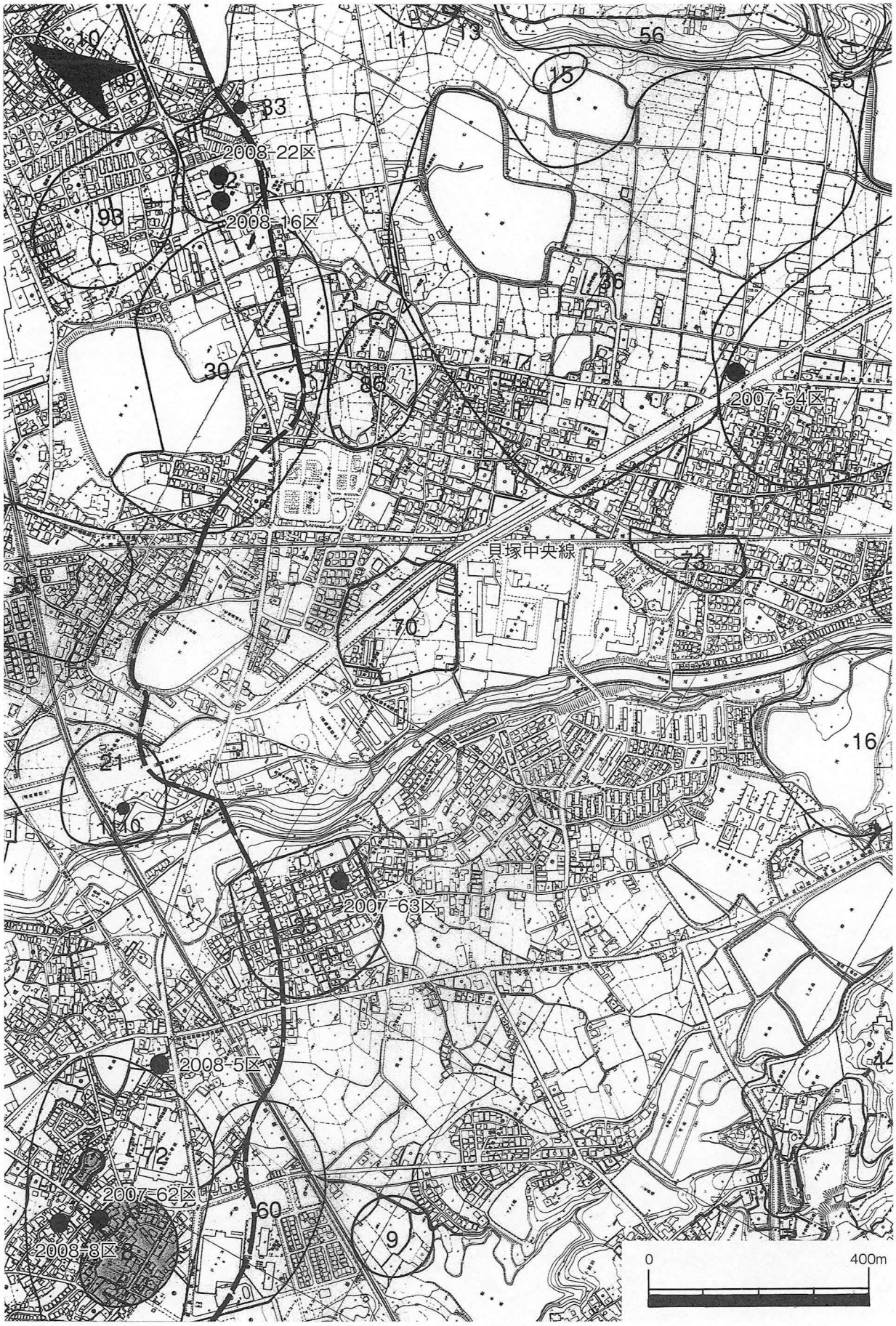

2008-22区
2008-16区
2007-54区
貝塚中央線
2007-63区
2008-5区
2007-62区
2008-8区
0
400m

図３　調査地位置図

JR阪和線
2008-15区
58
42
40
2008-28区
貝塚中央線
39
84
2007-57区
53
阪和道
2008-9区
18
2008-4区
0
400m

図４　調査地位置図

第２章　調査の成果

１．遺跡範囲外（貝塚市久保・半田）

2008-15 区の調査（図５・図版１）

本調査は、久保 210－10、216－2、半田 1072－19、1073 において実施した。調査は、申請地内において調査区（９㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土（バラス層）、２層は盛土および撹乱、３層はにぶい黄色砂、４層は黄褐色砂礫である。２層はコンクリート片等を多く混在する撹乱層である。申請地は工場跡地であったため、建物等による撹乱を受けていた。３層と４層は砂や砂礫を主体とする河川堆積層であり、湧水が著しく河川底部および地山は確認できなかった。

３層上面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

本申請地の南西方向には、津田川が流れている。今回の調査で検出した河川堆積層により、本申請地は津田川の氾濫原であったと考えられる。（木嶋）

２．加治・神前・畠中遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高 11 ～ 20 ｍに位置する。これまでの調査で弥生時代の井戸跡、古墳

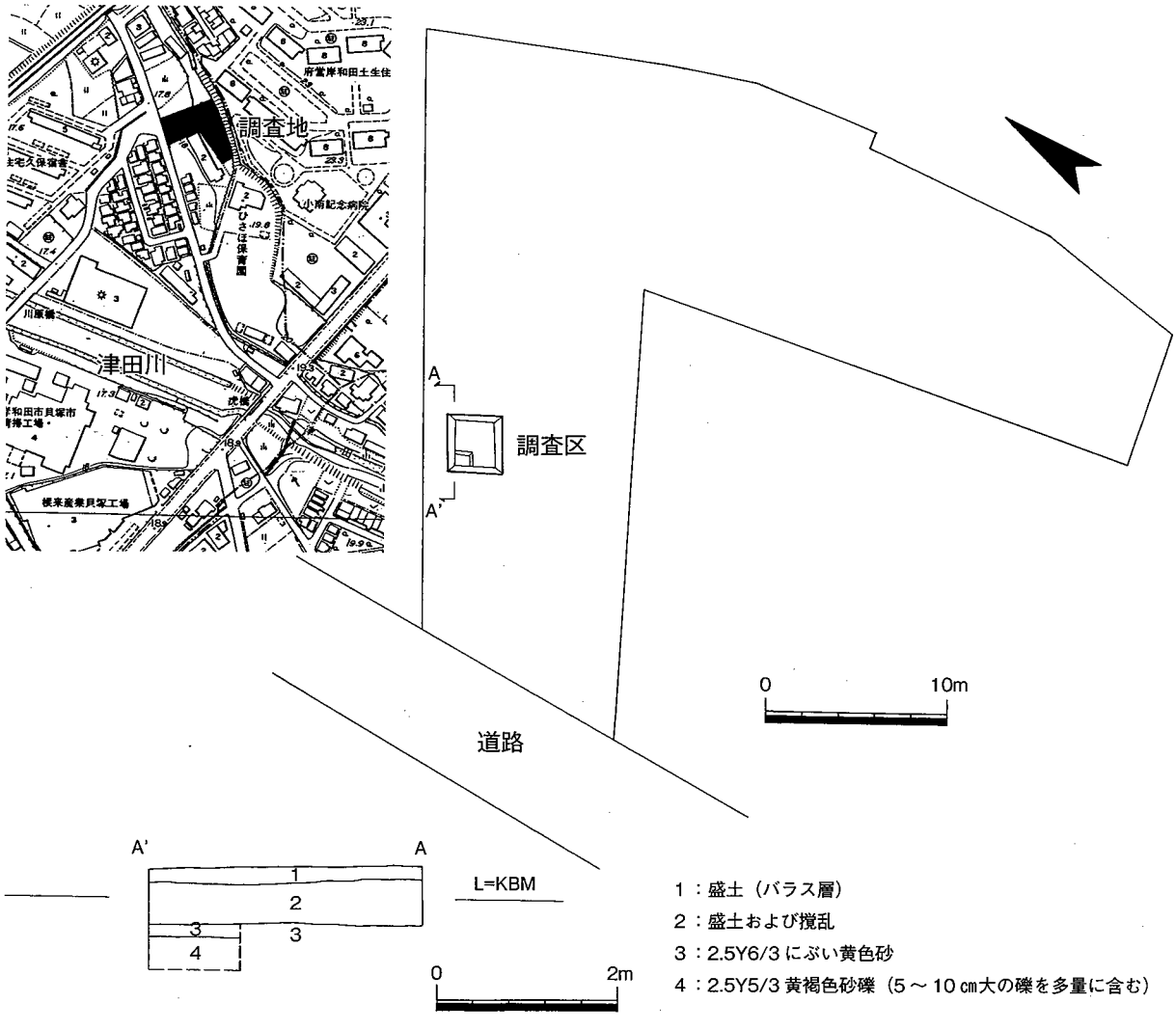


図５　2008－15区

時代前期の掘立柱建物跡、古墳時代後期の竪穴住居跡、古代の掘立柱建物跡、竪穴住居跡、井戸跡、溝跡等を検出しており、古代においては集落跡もしくは公的施設が存在した可能性がある。平成12年度（2000年）の調査において平安時代の瓦窯跡を10基検出しており、生産施設の存在が明らかとなっている。

2008－29区の調査（図6・図版1）

本調査は、加神1－170－1、481－4において実施した。調査は、浄化槽部分において調査区（4㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土、2層は炭化物・灰等を多量に含む撹乱、3層は黄褐色粘土（地山）である。

調査区の壁面等の観察により地山面は撹乱等によって削平を受けていると考えられる。また、撹乱からは湧水が発生した。

本申請地の周辺においては、過去の調査事例により中世の遺物包含層や耕地跡を確認している。本申請地においても中世の遺物包含層等が存在していた可能性がある。（木嶋）

3．地蔵堂遺跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高22～23mに位置する。これまでの調査では、中・近世の耕地跡、中世の素掘り井戸等を検出している。本遺跡の範囲は前方後円墳である地蔵堂丸山古墳、平安時代の寺院跡である地蔵堂廃寺を包括する。地蔵堂丸山古墳は、平成14年度（2002年）の調査により墳丘に伴う葺石及び埴輪列を検出している。出土した円筒埴輪から古墳は4世紀末に築造されたと考えられる。

2007－62区の調査（図7・図版2）

本調査は、地蔵堂258－1の一部において実施した。調査は、浄化槽部分において調査区（8.4㎡）を設定して行った。調査区より約10cmの盛土直下に明黄褐色粘質シルトの地山層を検出した。

地山上面で遺構検出を行い、1.3m×0.8mの長方形の土坑を検出した。土坑からは瓦、陶器（備前焼）のほかにモルタル片も出土していることから、近代以降のものと考えられる。

調査地には江戸期にさかのぼると考えられる民家が建っていた。遺構を検出した位置は門を入ってすぐの玄関へ至るまでの部分にあたり、何らかの施設が設けられていた可能性が高い。（上野）

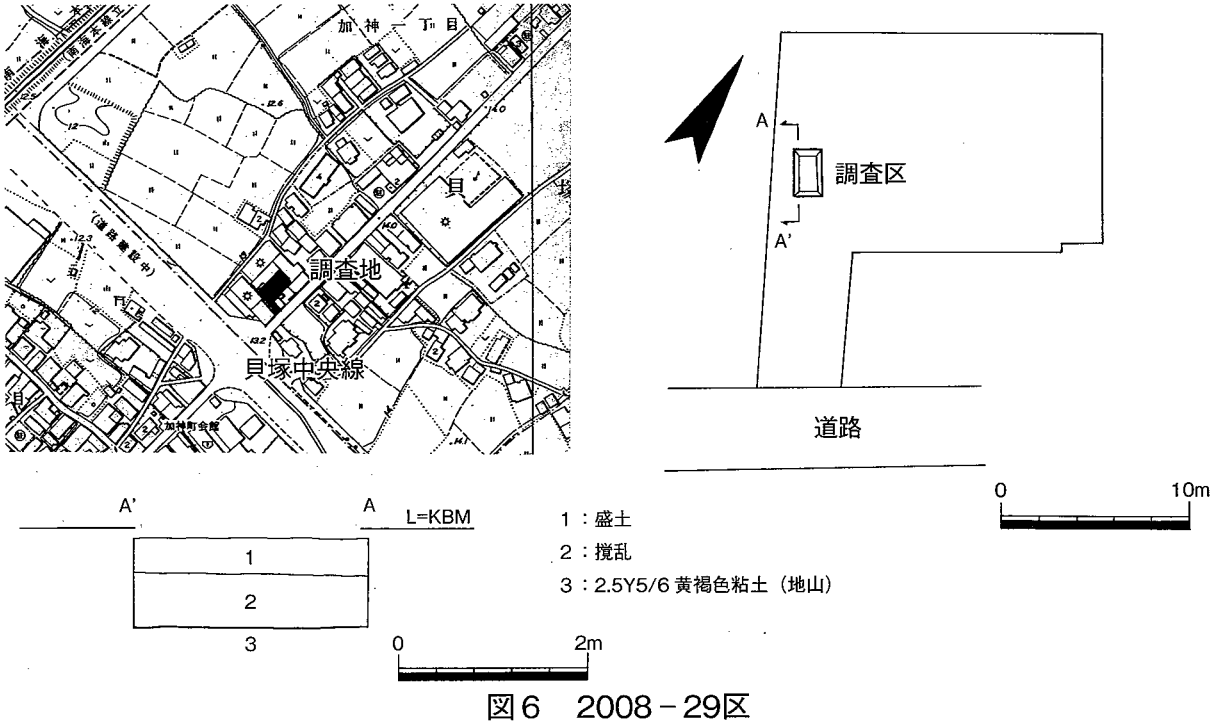


図6　2008－29区

2008－８区の調査（図７・図版３）

本調査は、地蔵堂 273－２の一部において実施した。調査は、申請地内において２箇所の調査区（計 14.5㎡）を設定して行った。

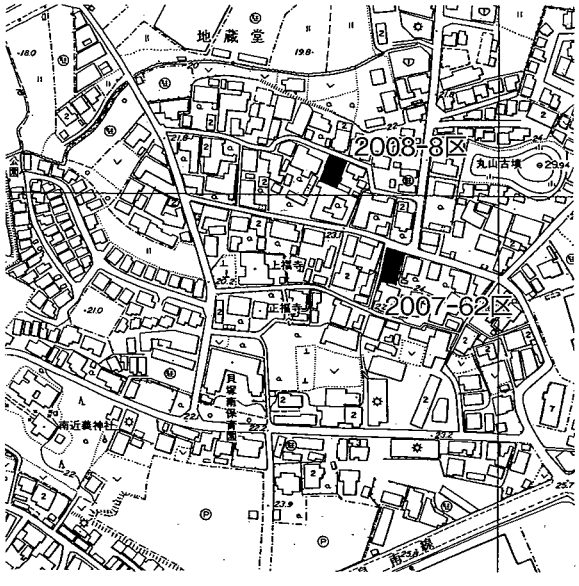
調査区１・２の層序は、１層が表土、２層は撹乱、３層は橙色粘土（地山）である。調査区１・２の撹乱より空き缶等とともに瓦、磁器が出土しており、近世後半の遺物が混在している。

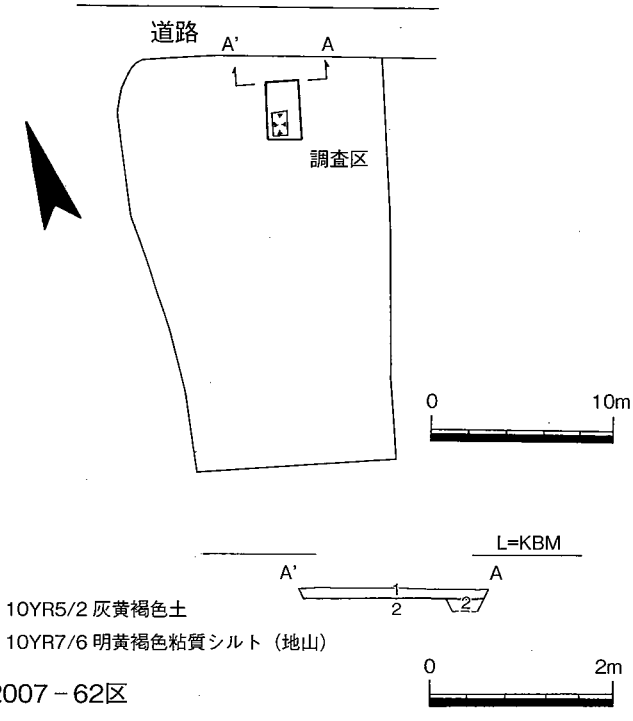
地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

申請地においては、土地が削平を受けており、遺物包含層および遺構は失われているものと考えられる。（木嶋）

2008－５区の調査（図８・図版２）

本調査は、堤 51－17、51－18 の一部において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（4.5㎡）を設定して行った。





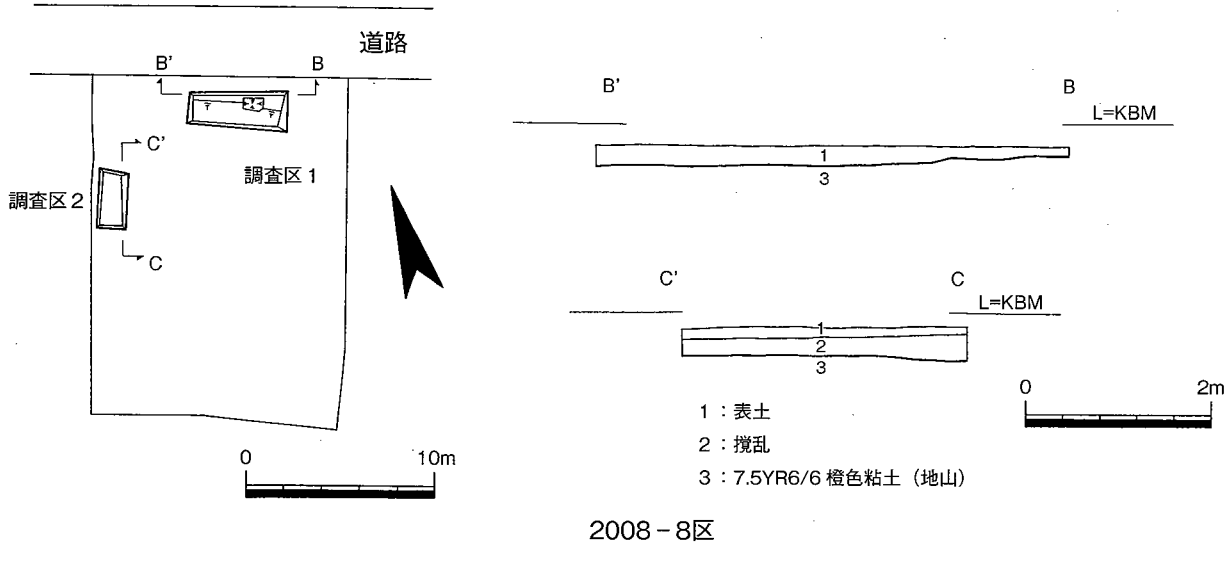
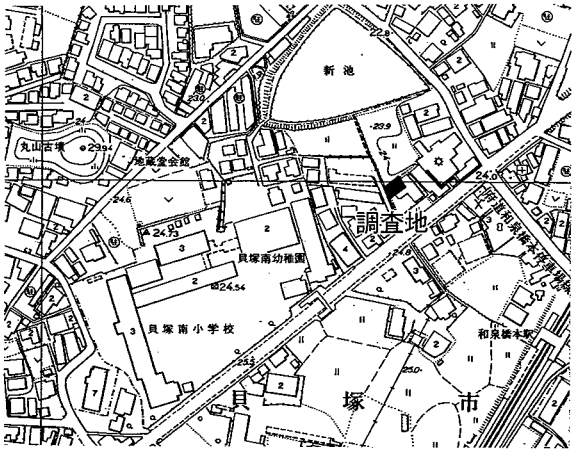
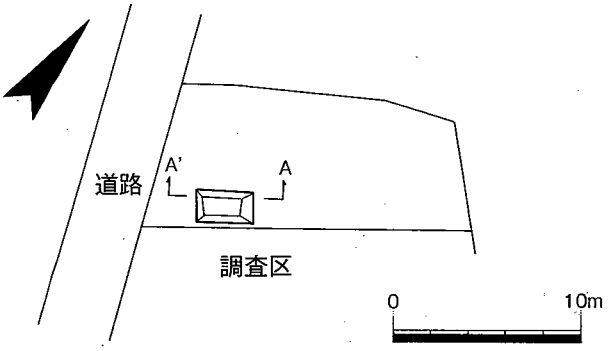
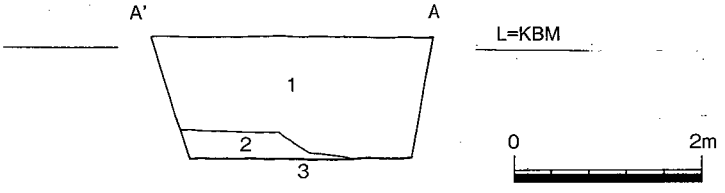


図７　2007－62区・2008－８区







1：盛土
2：5B5/1 青灰色礫混じり粘土
3：2.5Y6/4 にぶい黄色粘土（地山）

図８　2008－５区

調査区の層序は、１・２層は盛土および撹乱、３層はにぶい黄色粘土（地山）である。

地山面においては、湧水が著しく遺構検出はできなかった。土層等の観察により土地は削平を受けていると考えられ、遺物包含層は確認できなかった。

申請地の東側の宅地造成時の調査では、中世から近世にかけての遺物包含層を検出しており、本申請地についても遺物包含層が存在していた可能性がある。（木嶋）

４．積善寺城跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上に立地する。積善寺城は、雑賀・根来寺勢が永禄元（1558）年に岸和田三好氏との争いに備えて築いた城砦である。天正 13（1585）年、豊臣秀吉の紀州攻めには、出原右京が大将を務め防戦した。本丸には 30 間（約 60 m）四方の濠をめぐらし、城域は貝塚中央病院から近木川を挟んだ対岸の貝塚市橋本一帯と推定される。平成 15 年度の調査では、積善寺城の濠と考えられる遺構を検出した。遺構は東西方向に掘られており、その規模は幅６m以上、深さ 1.8 mである。遺構の堆積状況により落城後は、短期間に埋め立てが行なわれたと考えられる。

2007－63 区の調査（図９・図版４）

本調査は、橋本 137 において実施した。調査は、浄化槽部分において調査区（４㎡）を設定して行った。

調査区の地層堆積状況は、１層が盛土、２層は褐色粘質土、３層はにぶい黄褐色土、４層は灰黄褐色粘土、５層はにぶい黄褐色粗砂（地山）である。３層は、周辺の調査成果、地層堆積状況から判断して積善寺城の濠と考えられる。濠は、調査面積が限られるため規模は確認できなかったが、南東－北西方向にのびると考えられる。遺物は２層より瓦が出土している。（三浦）

５．麻生中遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約 28 mに位置し、周知の遺跡として弥生時代～古墳時代、平安時代、中世の集落跡と推定される。周辺の遺跡としては、白鳳時代に創建されたと考えられる秦廃寺が北に位置し、その周辺には麻生中下代遺跡、半田遺跡が位置する。麻生中下代遺跡では、７世紀前半～７世紀中葉の竪穴住居跡

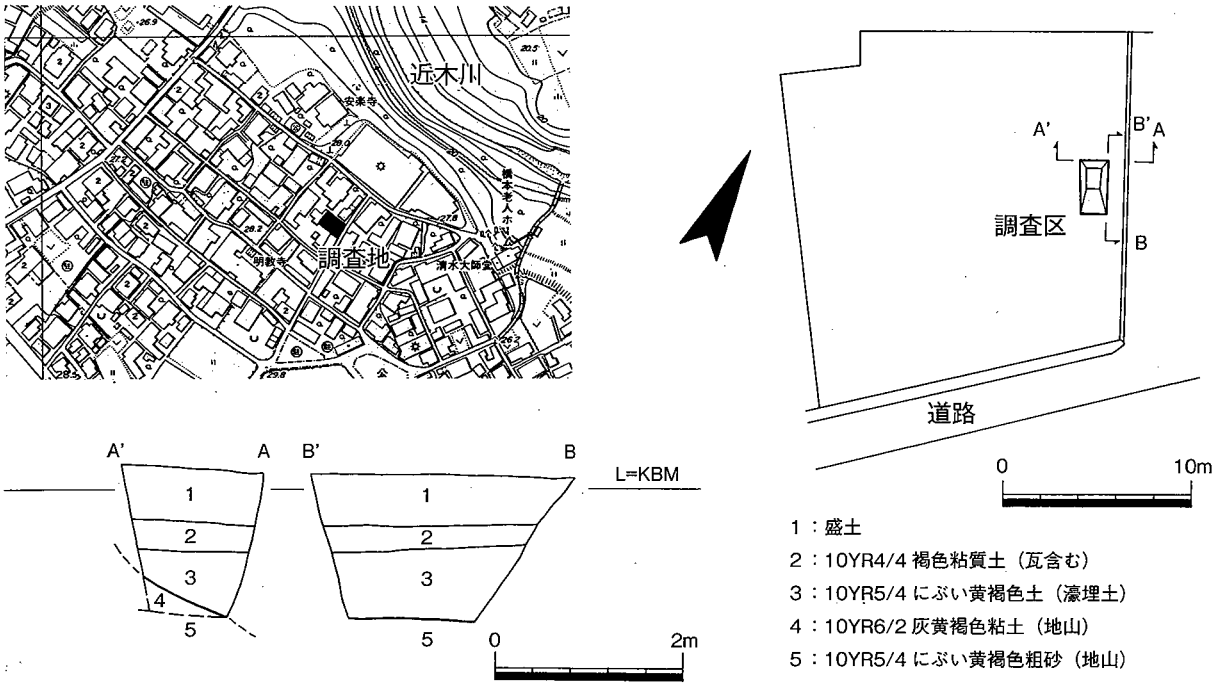


図９　2007－63区

７世紀後半～８世紀前半の掘立柱建物跡を、半田遺跡では、７～８世紀にかけての掘立柱建物跡、溝等を検出している。麻生中下代遺跡や半田遺跡は、秦寺に関係する集落跡と推定される。

2008－16区の調査（図10・図版５）

本調査は、麻生中1005－15において実施した。調査は、申請地内において２箇所の調査区（計15㎡）を設定して行った。

調査区１・２の層序は、１層は盛土および撹乱、２層は旧耕土、３層はにぶい黄橙色土（床土）、４層は黄灰色土、５層は褐灰色粘質土、６層はにぶい黄色砂礫（地山）である。

４層・５層より土師器、瓦器、須恵器、瓦が出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。

調査区１・２の地山面で遺構検出を行い、調査区２において東西方向の鋤溝を検出した。

本申請地を含むその周囲は、宅地造成時に確認調査を実施しており、中世の遺物包含層および鋤溝を検出している。今回検出した鋤溝については、５層の出土遺物や過去の調査事例により中世の耕地跡と考えられる。（木嶋）

2008－22区の調査（図10・図版６）

本調査は、麻生中1005－10、1005－11において実施した。調査は、申請地内において２箇所の調査区（計10.5㎡）を設定して行った。

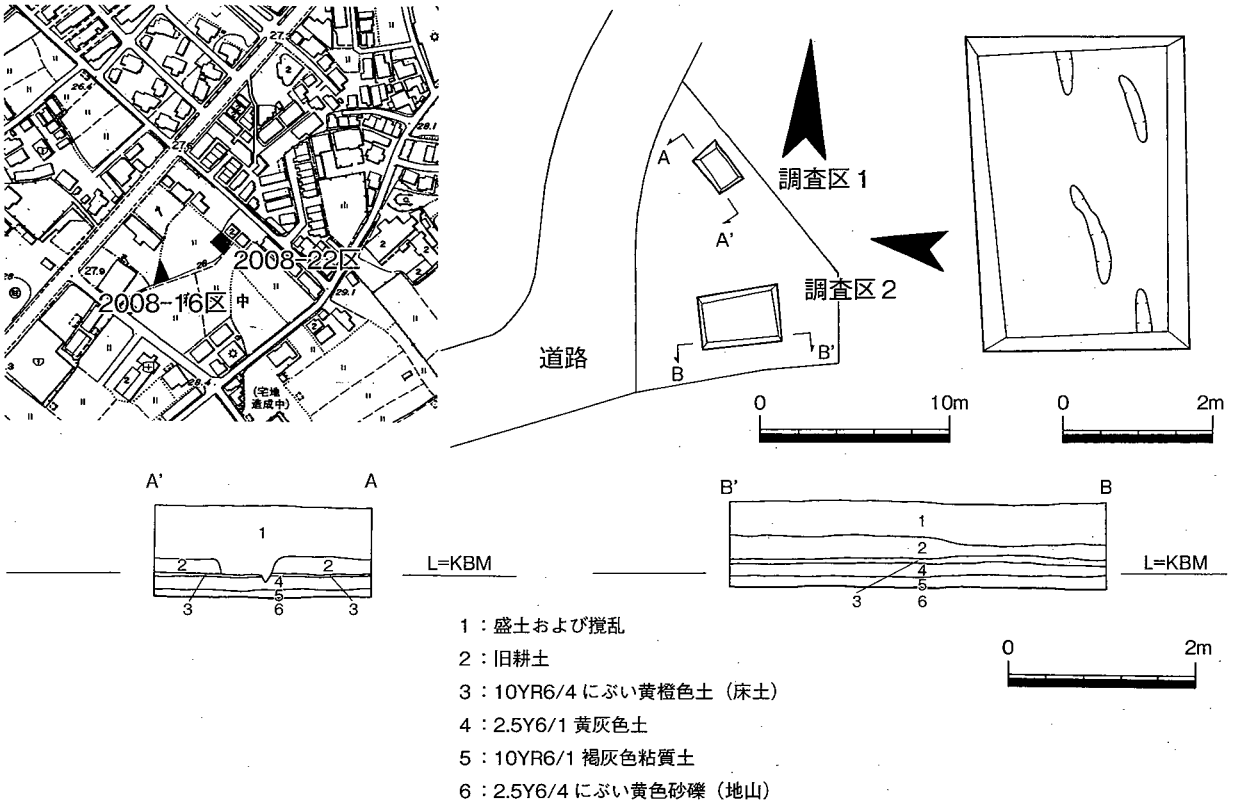
調査区１の層序は、１層が盛土および撹乱、５層は明黄褐色粘土（地山）である。調査区１は撹乱により遺物包含層等は削平を受けていた。

調査区２の層序は、１層が盛土および撹乱、２層は旧耕土、３層は黄灰色土、４層は灰黄褐色土（鋤溝）、６層はにぶい黄橙色粘土（地山）である。

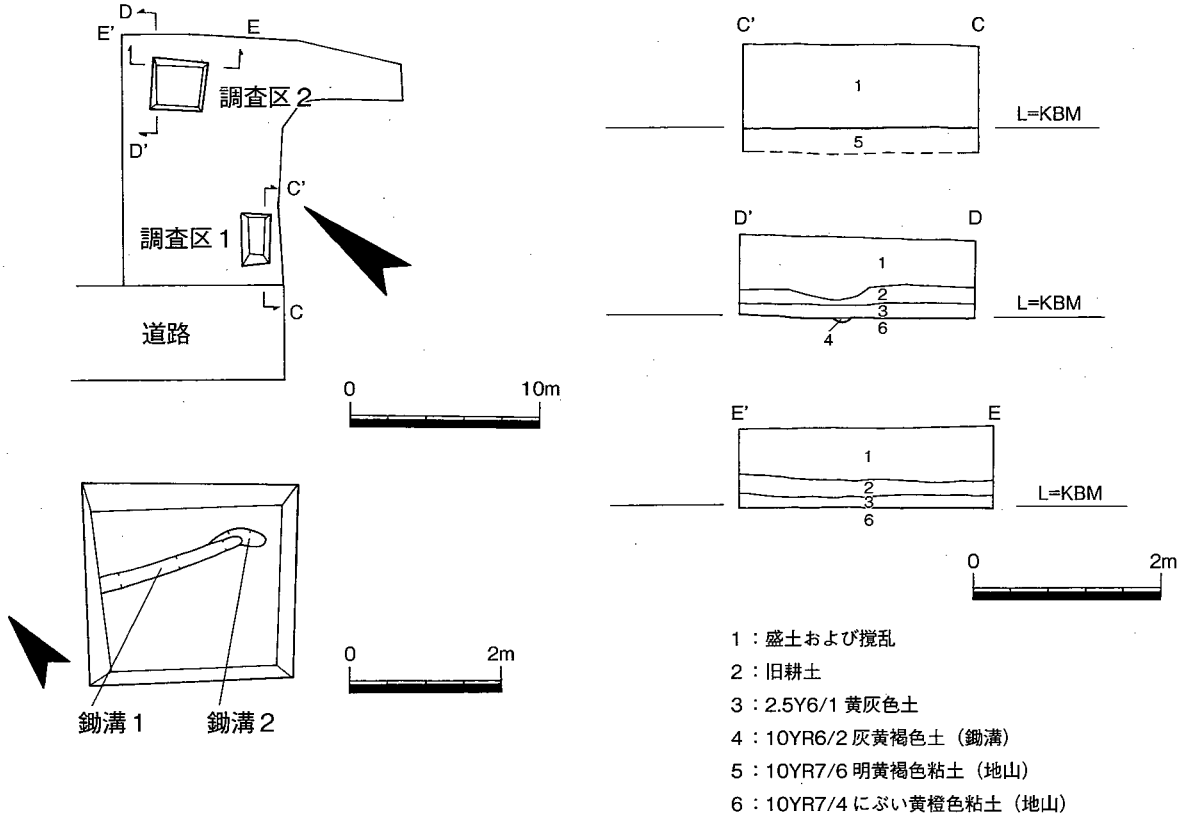
３層より土師器、瓦器、須恵器が出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。遺物包含層の掘削土より銅銭を１点採取した。銅銭は錆や摩滅が著しく、種類等は不明である。

銅銭は３層の耕土層より出土したものと考えられる。銅銭の摩滅状況により耕作による影響を受けているものと推測される。

調査区２の地山面で遺構検出を行い、東西方向の鋤溝を２条検出した。鋤溝１の埋土は灰黄褐色土、鋤溝２の



2008-16区



2008-22区

図10　2008－16区・2008－22区

埋土は灰白色砂質土であり、遺物は出土していない。これらの鋤溝は切り合い関係にあり、鋤溝１の方が新しい時期のものと考えられる。

本申請地を含むその周囲は、宅地造成時に確認調査を実施しており、中世の遺物包含層および鋤溝を検出している。今回検出した鋤溝については、３層の出土遺物や過去の調査事例により中世の耕地跡と考えられる。（木嶋）

６．堀秋毛遺跡

本遺跡は、近木川の右岸の中位段丘上、標高約15ｍに位置する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定される。

本遺跡の周辺には西側に海塚遺跡が位置し、本市による平成９年度･10年度の調査では、奈良時代の土坑、溝、中世の溝、鋤溝等を検出している。北側には東遺跡があり、中世の遺構として、井戸、区画溝、土坑を検出している。特に平成６年の調査では、牛・馬等の獣骨を廃棄した土坑を検出している。この獣骨廃棄土坑は、集落の生業を考える上で重要な資料となっている。

2008－19区の調査（図11・図版４）

本調査は、海塚16－１において実施した。調査は、申請地内において調査区（６㎡）を設定して行った。

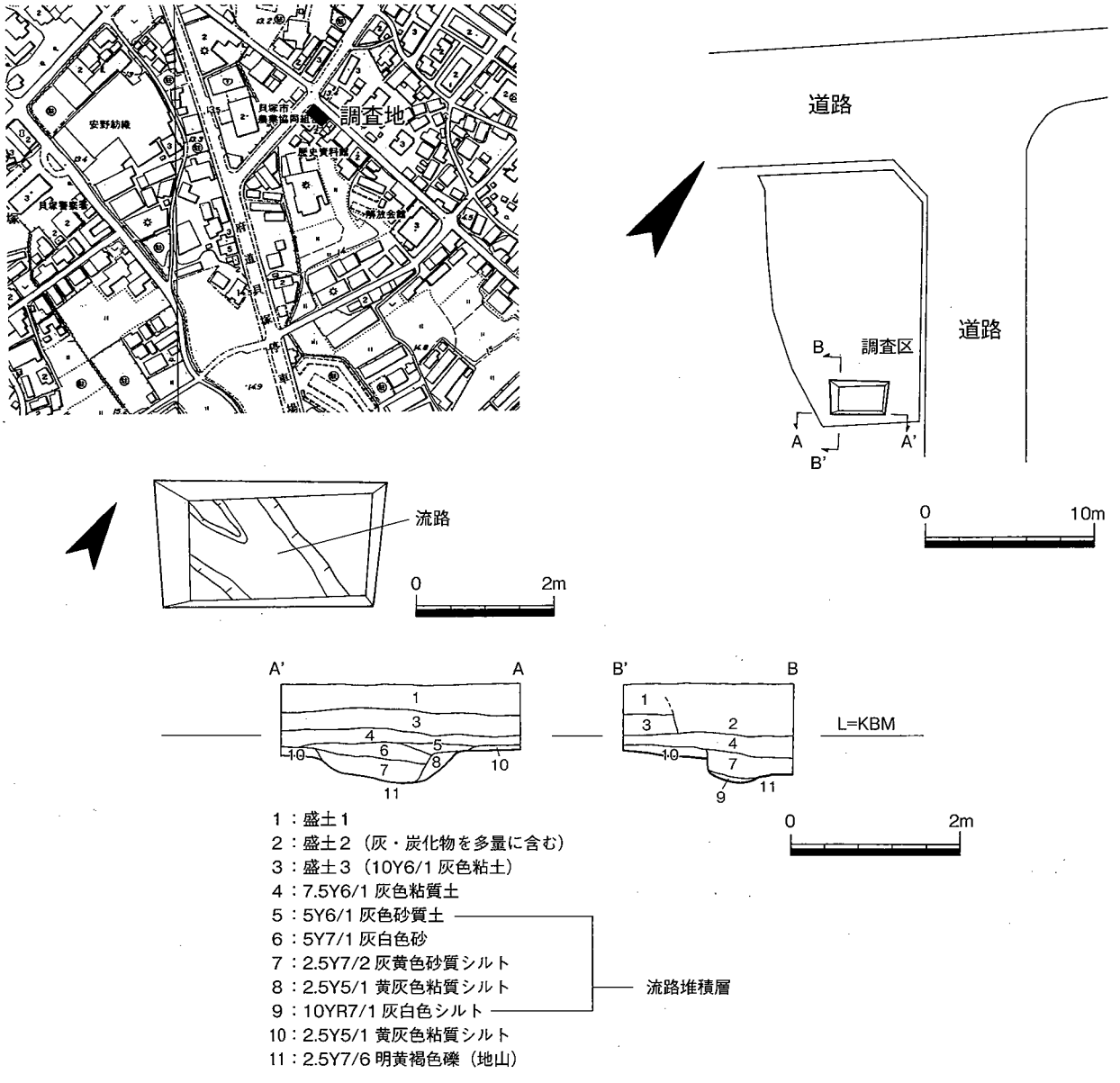


図11　2008－19区

調査区の層序は、１～３層は盛土、４層は灰色粘質土、５～９層は流路堆積層、10 層は黄灰色粘質シルト、11 層は明黄褐色礫（地山）である。

４層は近世後半から明治時代にかけての陶磁器、瓦が出土している。５～９層は砂～シルトを主体とする流路堆積層である。10 層は流路の影響により部分的に残存し、遺物が出土していないため、時期は不明である。

地山面において遺構検出を行い、東西方向の流路を検出した。流路の規模は、幅約 1.5 m、深さ 0.25 ～ 0.45 m である。流路より遺物は出土していないため、埋没時期等については不明である。

東西方向の流路は、10 層を削り取りながら西方向へ流れていたと考えられる。埋没時期は不明であるが、流路埋没後に土地利用されるのは近世後半以降であったと推測される。（木嶋）

７．沢西遺跡

本遺跡は、見出川の右岸、中位段丘上、標高５～９ｍに位置し、周知の遺跡として弥生時代、中世の集落跡と推定している。本遺跡の周辺には、弥生時代～奈良時代、中世、近世の集落跡である沢遺跡、平安時代の寺院跡である明楽寺跡が存在している。本遺跡は、平成３年度（1991 年）の調査において平安時代の溝、性格不明遺構、鋤溝等、中世の掘立柱建物跡１棟、溝、鋤溝を検出している。

2008－14 区の調査（図 12・図版７）

本調査は、沢 140－3 において実施した。調査は、申請地内において調査区（６㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土、２層は旧耕土、３層は木の根、４層はにぶい黄橙色土混じり黄灰色砂質土（床土）、５層は黄灰色砂～粗砂、６層は褐灰色砂、７・８層は明黄褐色粘土・明黄褐色砂礫（地山）である。

５層・６層は砂～粗砂を主体とする流路堆積層であり、調査区中央部で一段深くなる。流路堆積層より遺物は出土していないため、埋没時期は不明である。調査区の壁面観察等により流路の方向は北から南へ流れていたものと考えられる。

地山面において遺構検出を行ったが、遺構は検出できなかった。調査区の壁面観察等により流路堆積層上層は土地の削平を受けており、遺物包含層は失われている可能性がある。（木嶋）

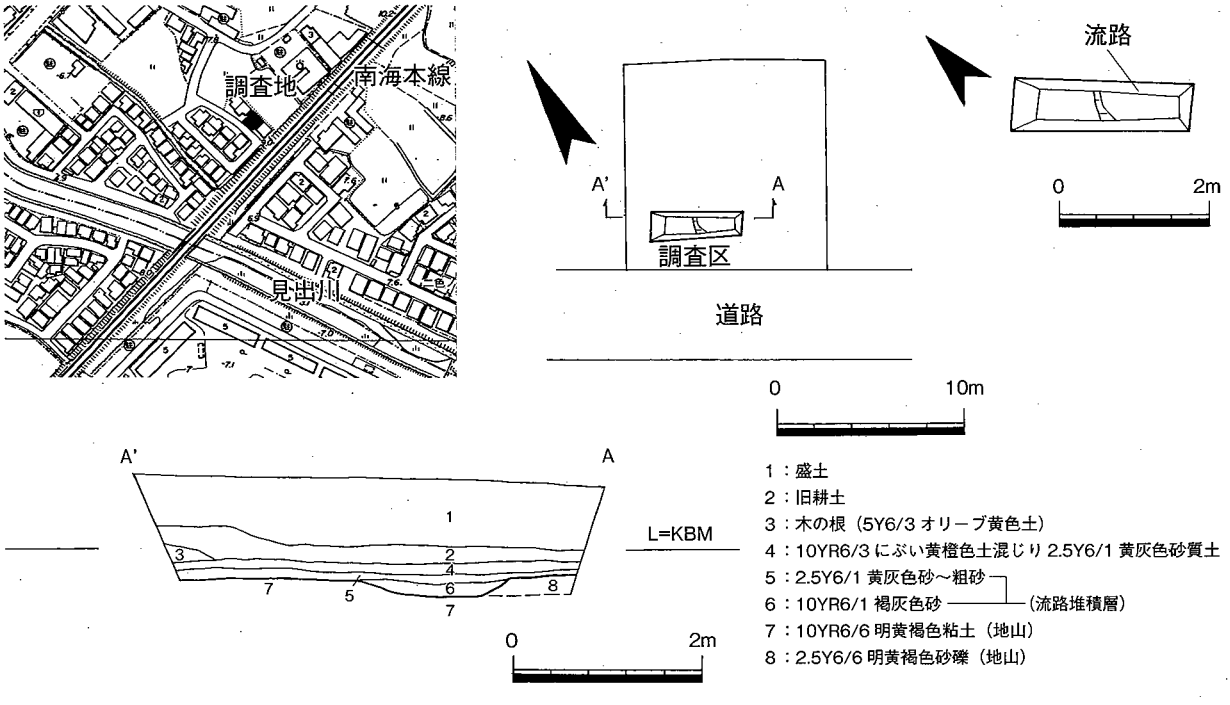


図12　2008－14区

8．名越遺跡

名越遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高32～38ｍに位置する。周知の遺跡として中世の散布地に推定しており、これまでの調査により耕地跡や溝跡等を検出している。本遺跡の西には名越西遺跡が存在し、古墳時代前期の溝を検出したほか、弥生時代中期以降の土器が出土している。

2007－54区の調査（図13・図版7）

本調査は、清児534－2において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分で調査区（3.75㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土、2層は旧耕土、3層は灰色砂混じり粘質土、4層は黄褐色砂礫（地山）である。3層より遺物は出土していない。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

調査区は、土質等の観察により3層は遺物包含層の可能性は低く、近代以降に土地が削平された可能性がある。

（木嶋）

9．森B遺跡

本遺跡は、近木川右岸に位置し、標高約50ｍの段丘上に立地する。（財）大阪府埋蔵文化財協会（現：（財）

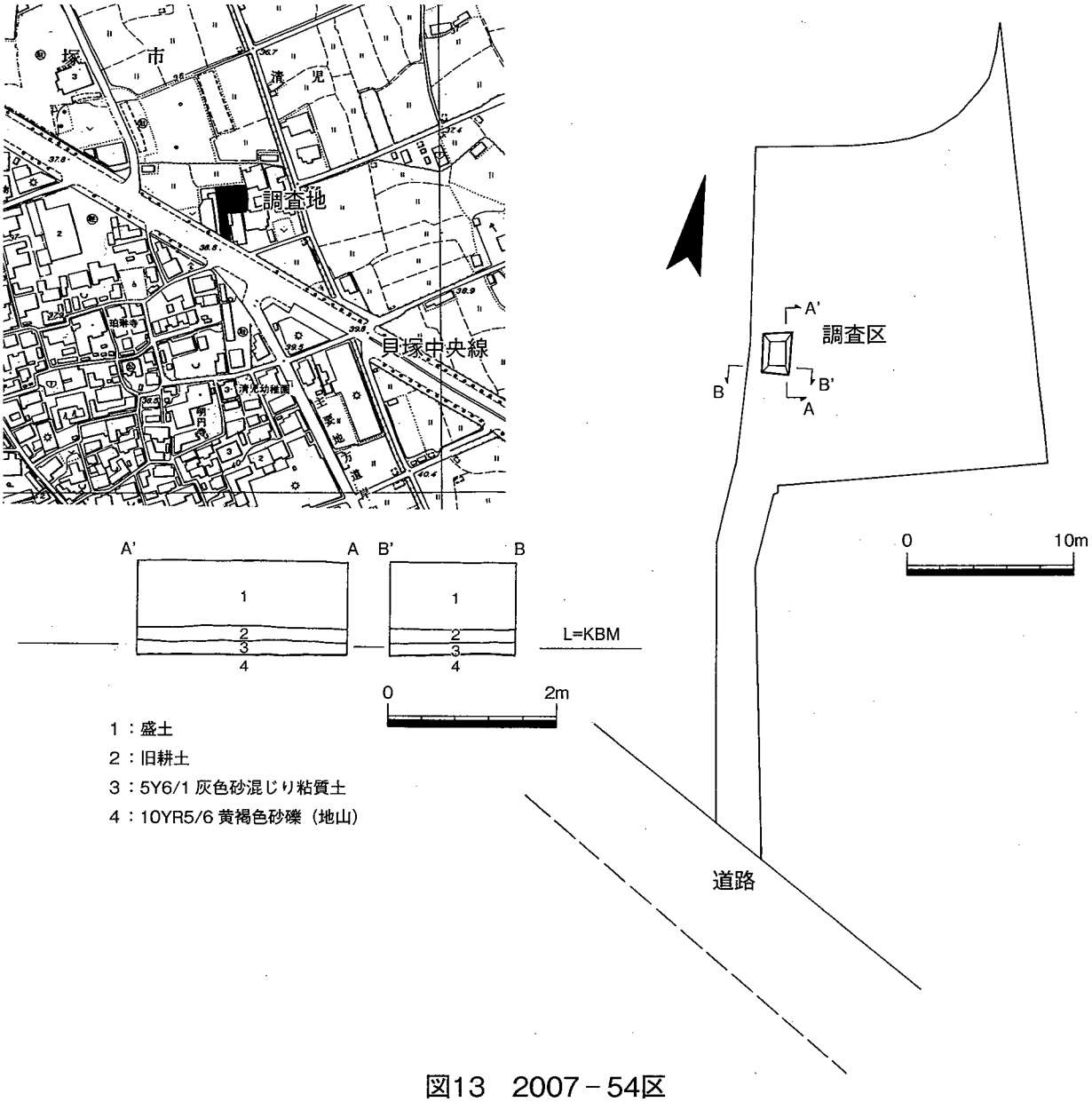


図13　2007－54区

大阪府文化財センター）の調査では、奈良時代から近世にかけての階段状に形成された耕地跡を検出している。耕地跡に伴う遺構として奈良時代の幅6.2 m、深さ1.2 mの溝、中世の溝や鋤溝等を検出している。

2008－28区の調査（図14・図版8）

本調査は、森317－1の一部、317－6において実施した。調査は、申請地内において2箇所の調査区（計12㎡）を設定して行った。

調査区1・2の層序は、第1層が盛土、第2層は灰白色土混じり灰黄褐色土、第3層は灰黄褐色粘質土、第4層は浅黄色粘質シルト（地山）である。

第2層と第3層より土師器、瓦器が出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。

調査区1・2の地山面において遺構検出を行い、鋤溝を検出した。

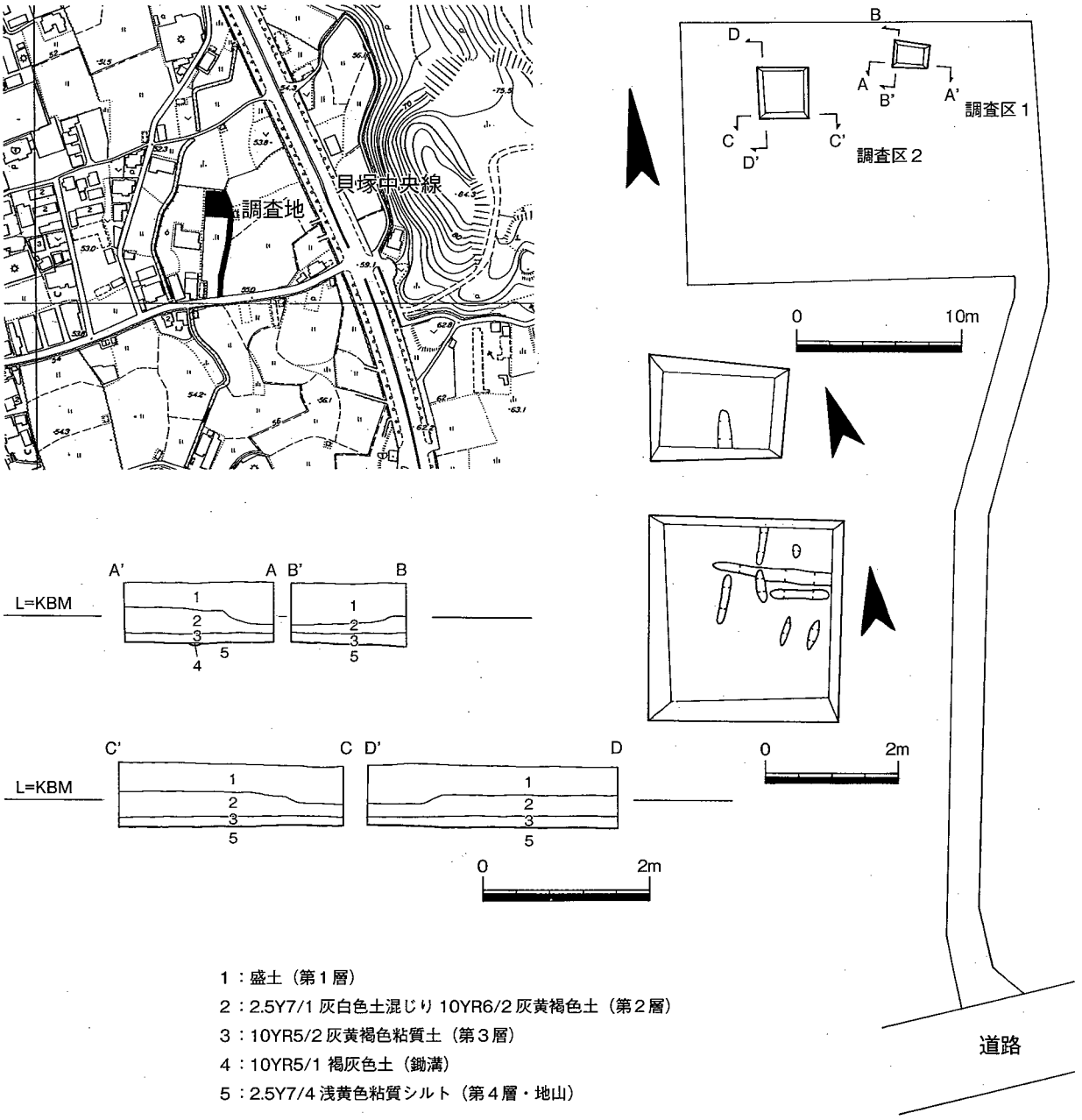


図14　2008－28区

調査区１では南北方向の鋤溝、調査区２では南北方向と東西方向の鋤溝を検出した。調査区２の鋤溝は切り合い関係にあり、東西方向の鋤溝の方が古い。

本申請地においては、鋤溝や遺物包含層により中世の耕地跡が存在していたものと考えられる。　（木嶋）

10. 三ヶ山西遺跡

本遺跡は、近木川右岸に位置し、標高 70 mの段丘上に立地する。本市による平成 11 年度（1999 年）の調査では、中世の遺物包含層より縄文土器が混在しており、調査区の周辺において縄文期の遺物包含層および遺構が存在している可能性が高い。また（財）大阪府埋蔵文化財協会（現：（財）大阪府文化財センター）の調査では、中世の掘立柱建物跡等の遺構が検出されている。

2007－57 区の調査（図 15・図版９）

本調査は、三ツ松 1455－9、1464－5 の一部において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（4.4 ㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土、２層は灰色土、３層はにぶい黄褐色粘質シルト（地山）である。２層は旧耕土混じりの撹乱層である。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

申請地周辺の調査事例では、中世の遺物包含層を確認しているが、本申請地においては土地の削平や撹乱によって遺物包含層は失われたものと考えられる。　（木嶋）

11. 木積観音寺跡

本遺跡は、近木川北岸の中位段丘上、標高約 86 mに位置する。周知の遺跡として、平安時代～中世の寺院跡と推定される。本遺跡包蔵地内には釘無堂と呼ばれる国宝の観音堂が所在する。平成４年度の調査において、孝恩寺境内で中・近世の遺構を検出している。特に寺院の建物や区画に関係したと推測される溝を検出している。

2008－４区の調査（図 16・図版９）

本調査は、木積 1976－２の一部、1976－３の一部において実施した。調査は、浄化槽部分において調査区（3.9 ㎡）を設定して行った。

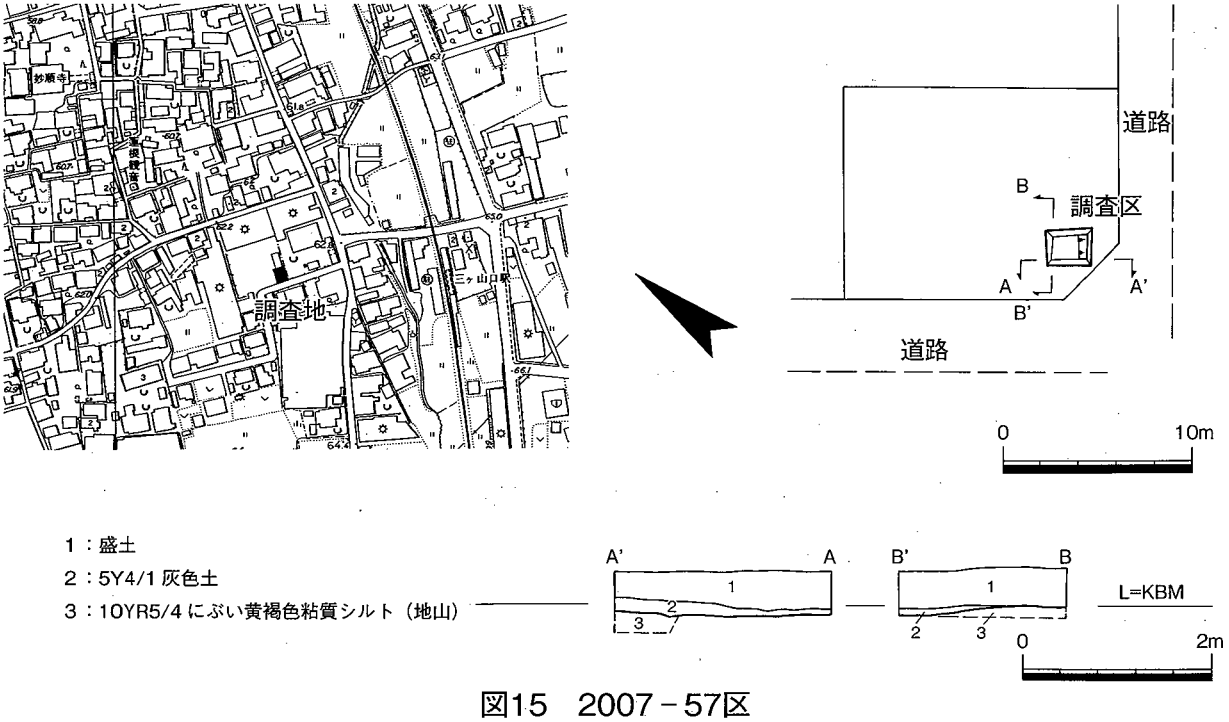


図15　2007－57区

調査区の層序は、１層が盛土、２層は黄灰色砂混じり灰黄褐色土、３層は灰黄褐色粘質土、４層はにぶい黄橙色粘質土～粘土（地山）である。

２・３層は遺物包含層であり、土師器、須恵器、瓦器が出土している。

地山面において遺構検出を行い、東西方向の鋤溝を検出した。検出した遺構や遺物から、本申請地では中世の耕地跡と考えられる。また、本申請地の東側に位置する孝恩寺境内の発掘調査成果では、中世の遺構を多数検出していること等により申請地周辺は中世に本格的な開発が行われたものと考えられる。（木嶋）

2008－９区の調査（図 16・図版 10）

本調査は、木積 2001 の一部において実施した。調査は、建物部分において調査区（8.9㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層がバラス、２層は盛土、３層は旧耕土、４層は黄褐色粘質土（床土）、５層は褐灰色砂混じり粘質土（溝埋土）、６層は黄灰色砂質土、７層は灰黄褐色粘質土混じり黄灰色砂質土、８層は灰色砂混じり粘質土、９層は浅黄色粘土（地山）である。

６層～８層は中世の遺物包含層と考えられ、７層・８層より土師器、瓦器が出土している。

７層・地山（９層）の各上面において遺構検出を行い、７層上面で溝（SD－1）、地山面で鋤溝を検出した。SD－１の規模は、幅 0.8 m以上、深さ 0.35 mである。SD－１は６層より掘り込まれている。埋土は褐灰色砂混じり粘質土であり、遺物は出土していない。SD－１より 10cm 大の礫を多数検出したが、堆積状況により護岸用の石組みではなく、溝の埋め戻しに際して混在した礫と推測される。

地山面で南北方向の鋤溝を検出したが、遺物は出土していない。鋤溝の時期については、上層の出土遺物より中世と考えられる。

申請地においては、中世以降の耕地と考えられ、SD－１は近世以降に設けられた耕地に伴う水路と推測される。（木嶋）

12. 沢城跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高８～ 11m に位置する。中世・戦国時代の集落跡・城跡と推定されている。沢城は紀州根来勢により畠中城・積善寺城とともに近木川流域に築かれた城である。天正 13（1585）年の豊臣秀吉による紀州攻めの際には、宝蔵院、田中加助ら紀州の一向宗と雑賀衆約 6000 人が籠城したとされる。

沢城跡では、中世の掘立柱建物跡、耕地跡、溝等を検出している。昭和 56 年度（1981 年）の調査では、溝を検出し、溝内より大量の瓦が出土していることから、沢城の堀の可能性がある。

2008－17 区の調査（図 17・図版 11）

本調査は、沢1294－1の一部において実施した。調査は、申請地内において調査区（9.45㎡）を設定して行った。

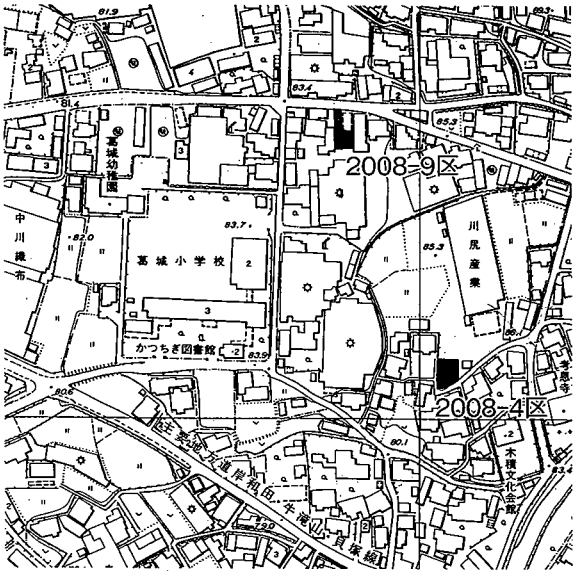
調査区の層序は、１・２層が盛土、３層は灰色粘質土、４層は明黄褐色粘土（地山）である。３層より土師器、瓦器、須恵器、瓦が出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。地山面において遺構検出を行い、鋤溝、溝、柱穴、土坑等を検出した。

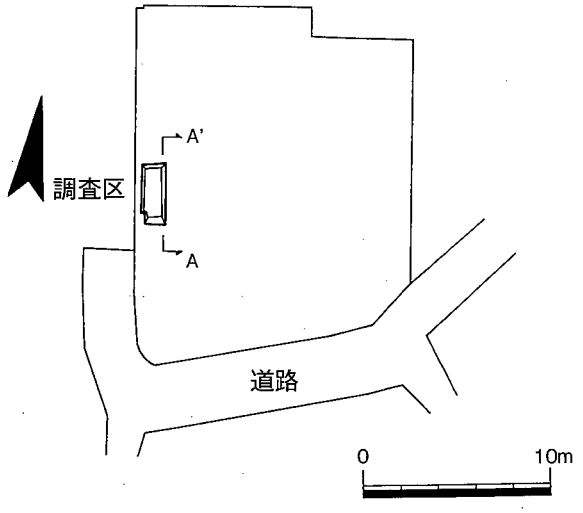
鋤溝は東西方向に４条検出した。鋤溝の埋土は灰色粘質土である。

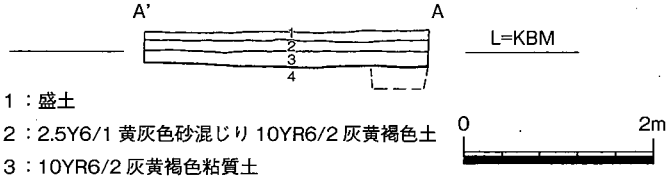
溝は、南西 - 北東方向（SD－１）と南東 - 北西方向（SD－２）の２条検出した。SD－１の規模は検出幅 0.3 m、深さ 0.1 mである。埋土は黄灰色粘質土であり、遺物は瓦器が出土している。SD－２の規模は検出幅 0.2 m、深さ 0.1 mである。遺物は出土していない。SD－１と切り合い関係にあり、SD－２の方が古い。

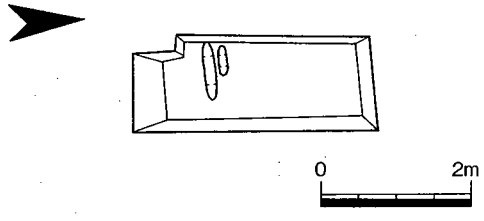
柱穴は２基（Pit－１・２）検出した。柱穴の規模は直径 0.35 ～ 0.4 m、深さ 0.25 mである。埋土は Pit－１が灰白色粘質シルト、Pit－２は黄灰色粘質シルトであり、埋土の土質により別の建物の柱穴と考えられる。Pit－２より土師器、瓦器が出土している。

Pit－１・２より直径が小さい杭跡を２基（Pit－３・４）検出している。杭跡の規模は直径 0.2 m、深さ 0.2 m



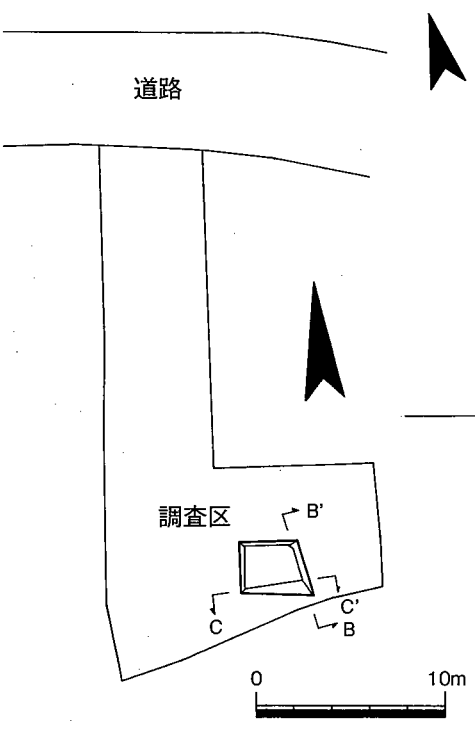


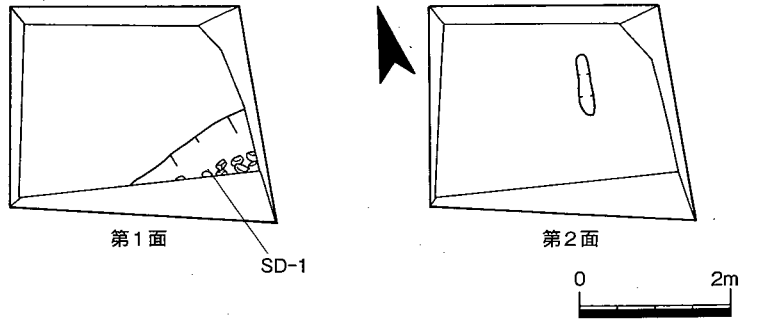


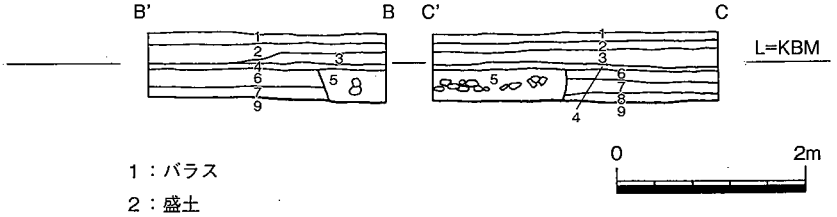


1：盛土
2：2.5Y6/1 黄灰色砂混じり 10YR6/2 灰黄褐色土
3：10YR6/2 灰黄褐色粘質土
4：10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土～粘土（地山）
5：5Y6/1 灰色土（鋤溝埋土）

2008－4区



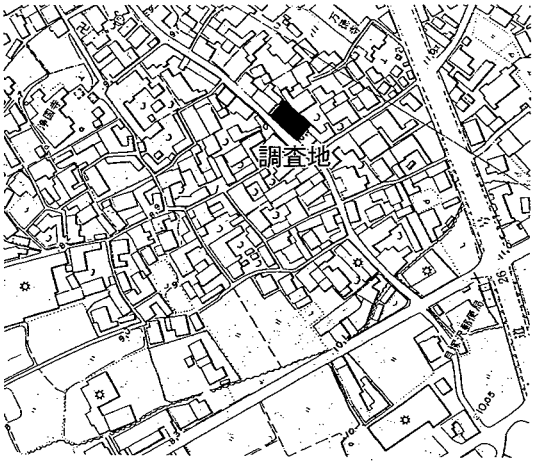


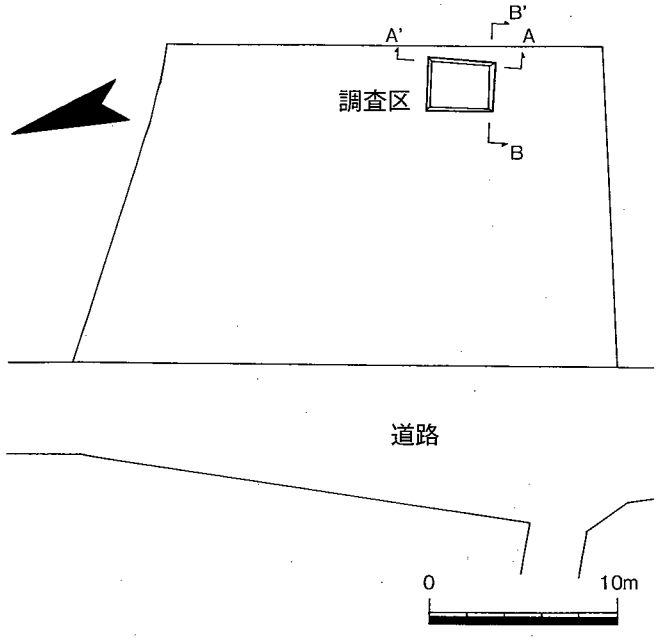


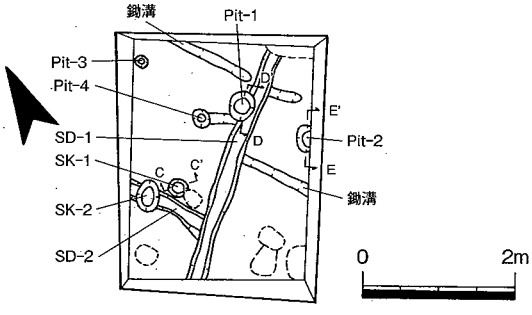
1：バラス
2：盛土
3：旧耕土
4：10YR5/6 黄褐色粘質土（床土）
5：10YR5/1 褐灰色砂混じり粘質土
6：2.5Y6/1 黄灰色砂質土
7：10YR6/2 灰黄褐色粘質土混じり 2.5Y5/1 黄灰色砂質土
8：5Y6/1 灰色砂混じり粘質土
9：5Y7/3 浅黄色粘土（地山）

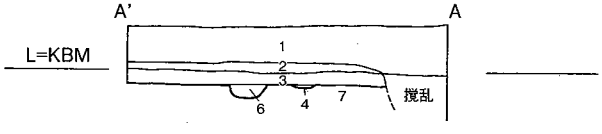
2008－9区

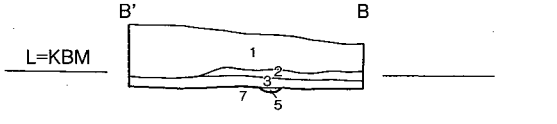
図16　2008－4区・2008－9区

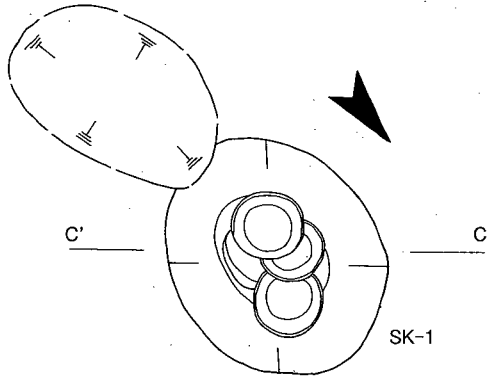


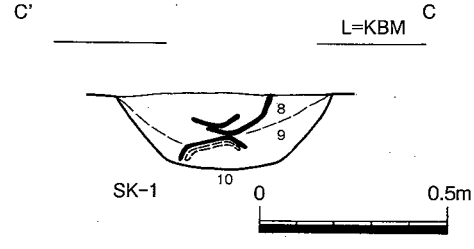






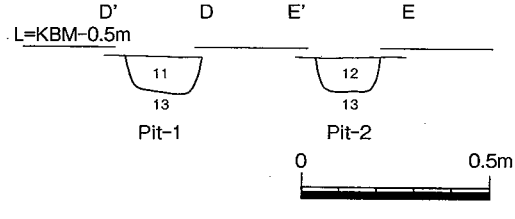


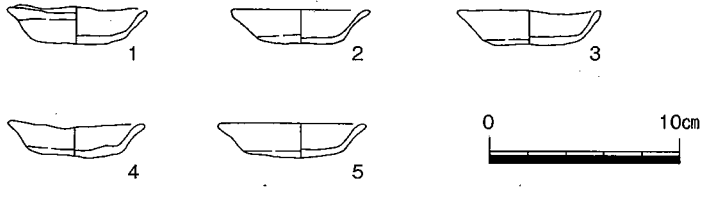




1：盛土
2：5Y5/2 灰オリーブ色土（盛土）
3：5Y6/1 灰色粘質土
4：5Y7/1 灰白色粘質シルト（鋤溝）
5：2.5Y6/1 黄灰色粘質土（SD-1）
6：2.5Y7/1 灰白色粘質シルト（Pit-2）
7：10YR6/6 明黄褐色粘土（地山）

8：10YR5/1 褐灰色粘質土（SK-1）
9：10YR6/1 褐灰色粘質土（SK-1）
10：10YR6/6 明黄褐色粘土（地山）





SK-1 出土遺物

11：2.5Y6/1 黄灰色シルト（Pit-1）
12：2.5Y7/1 灰白色粘質シルト（Pit-2）
13：10YR6/6 明黄褐色粘土（地山）

図17　2008－17区

である。埋土はPit－３が黄灰色砂質土、Pit－４は灰色粘質土である。

土坑は２基（SK－１・２）検出した。SK－１の規模は直径0.23m、深さ0.08m、埋土は褐灰色粘質土である。土坑内より土師器小皿が計５点出土しており、出土状況により地鎮土坑と考えられる。出土遺物１～５は土師器小皿である。これらの口径は１・３が7.5cm、２・４は7.3cm、５は復元口径7.8cmである。SK－２の規模は直径0.3m、深さ0.1mである。埋土は褐灰色砂混じり粘質土である。遺物は瓦器、土師器小皿、15cm大の石が出土している。

本調査区より検出したこれらの遺構の時期は、出土遺物により中世後半と考えられる。遺構の切り合い関係による変遷は鋤溝→溝（SD－２・SD－1）→柱穴（Pit－１・2）・杭跡（Pit－3・4）・土坑（SK－1・2）であり、耕地から建物（集落）へと移り変わったものと推測される。

今回検出した柱穴と地鎮土坑との関連については、土質が異なることから直接的な関連は不明である。（木嶋）

13. 長楽寺跡

本遺跡は、本市西部の脇浜に位置し、近木川の右岸、標高約10ｍの中位段丘上に存在し、周知の遺跡として平安時代の寺院跡として推定している。本遺跡には、「長楽寺」、「長楽寺山」等の小字名を確認している。

2007－58区の調査（図18～21・図版12～16）

貝塚市脇浜662に位置する貝塚市立西小学校の体育館の建て替え工事に伴い、確認調査を実施した。

調査区は、建設計画に基づき、調査区１～４（計214.75㎡）を設定して実施した。調査区３・４については、調査区２で検出したSD－58・60を確認する目的で調査区の拡張を行ったものである。

基本層序は、第１層が盛土（層厚0.2～0.6m）、第２層は旧耕土（層厚0.2m）、第３層は灰白色（5Y7/1）砂質土（層厚0.06m）、第４層は明黄褐色（2.5Y7/6）シルト～粘質シルト（地山）である。第３層は耕地層に伴う床土層である。

調査区１～４は、土地の削平を受けており、遺物包含層は失われていた。そのため遺物は遺構内より出土したものである。また、調査区１の西壁、調査区２の北壁は体育館等の撹乱を受けていた。

調査区１・２の地山面（第４層）において遺構検出を行った。調査区３・４はSD－58・60の断面を確認するために設定したものであり、面的な遺構検出は行っていない。

以下、検出した遺構の概略を記す。

SD－1（図18・19・図版12）

本遺構は、調査区１において検出した南西－北東方向の溝である。規模は検出長２m、幅1.5ｍ以上、深さ0.4ｍである。埋土は上層（５層）が灰色（7.5Y4/1）砂礫、下層（６・７層）は灰色（5Y6/1）砂質シルトである（図19：調査区１断面図参照）。遺物は溝下層より瓦、土師器が出土している。

土質等の観察により６・７層は水成堆積であり、５層は人為的に埋め戻したものと考えられる。埋没時期は７層から出土した瓦により中世と考えられる。

SD－20（図18・図版13）

本遺構は、調査区２中央部において検出した南西－北東方向の自然流路である。規模は検出長８m以上、幅５m、深さ0.5ｍである。埋土は灰黄褐色（10YR4/1）粗砂混じりシルトである。この自然流路は流路底部の高低差により南西方向に水が流れていたものと考えられる。遺物は出土しておらず、埋没時期は不明である。

SD－３（図18・図版13）

本遺構は、調査区２の西側において検出した南北方向の溝状遺構である。規模は検出長７m以上、幅２m、深さ0.3ｍである。埋土は上層が黒褐色（10YR3/1）粗砂混じり粘質土、下層は浅黄色（2.5Y7/3）土混じり褐灰色（10YR4/1）粘質シルトである。本遺構は、自然流路と切り合い関係にあり、自然流路埋没後にSD－３が設けられている。遺物は土師器、須恵器が出土しており、古墳時代後期に埋没したと考えられる。

SD－31（図18、図版14）

本遺構は、調査区２東側において検出した溝である。規模は検出長５ｍ以上、幅0.5ｍ、深さ0.08～0.15ｍである。埋土は褐灰色（10YR4/1）粘質シルトである。遺物は土師器が出土している。本遺構は東西方向に蛇行してのびる。水流の方向については溝底部の高低差により東方向に流れていたと考えられる。時期は出土遺物により古墳時代後期ごろと考えられる。

SK－42・46・52・64（図18・図版14）

これらの遺構は、調査区２東側において検出した土坑である。規模は直径0.35～0.4ｍ、深さ0.1～0.15ｍである。埋土は、SK－42・52が褐灰色粘質シルト、SK－46は灰黄褐色粘質土、SK－64は黒褐色土混じりにぶい黄褐色粘質土である。遺物が出土していないため、時期は不明であるが、SK－42・52についてはSD－31埋土と土質が類似しているため、時期は古墳時代後期ごろの可能性がある。これらの土坑の性格については不明である。

SK－45（図18・図版14）

本遺構は、調査区２東側において検出した土坑である。規模は長軸0.9ｍ、短軸0.6ｍ、深さ0.1ｍである。埋土は黄灰色砂質土である。遺物が出土していないため時期は不明である。SK － 42・46・52・64とは、埋土の土質が明らかに異なるため、中世以降に形成された可能性がある。

SD－58（図18・20、図版15）

本遺構は、調査区２南側において検出した濠である。規模は検出長６ｍ以上、幅1.6ｍ、深さ１ｍであり、断面形状はＵ字形である。埋土は上層が灰黄褐色（10YR6/2）粘質土、中層は灰黄褐色（10YR5/2）礫混じり粘質シルト、下層は暗灰黄色（2.5Y4/2）小砂礫混じり砂質土である。遺物は多量の瓦類と陶磁器等が出土している。

本遺構は、東西方向にのび、調査区２西側において北方向に折れ曲がり、SD－60に接続する。

SD－60（図18・19、図版16）

本遺構は、調査区２西側において検出した濠である。規模は検出長５ｍ以上、幅1.3ｍ、深さ１ｍである。埋土は上層がにぶい黄橙色（10YR6/3）礫混じり砂質土、中層は灰褐色（7.5Y5/2）粘土、下層はにぶい黄褐色（10YR5/3）粘質シルトである。遺物は多量の瓦と陶磁器等である。

本遺構は、南東－北西方向であり、南東方向は調査区２中央部で途絶える。折れ曲がるSD－58と接続しており、切り合い関係から本遺構の方が新しく設けられたものと考えられる。また、SD－58・60の埋没時期は、埋土の堆積状況や土質が近似することから、ほぼ同時期に埋め戻されたものと考えられる。SD－58・60の埋没時期は出土遺物により中世後期と考えられるが、遺物は平安時代から中世にかけての瓦が出土しており、出土遺物に年代幅がある。

SK－35（図18）

本遺構は、調査区２の北東側で検出した土坑である。規模は東西長1.3ｍ、深さ0.1ｍである。埋土は灰黄色砂質シルトである。遺物は出土していない。本遺構の時期や性格については不明である。

SK－72～74（図20）

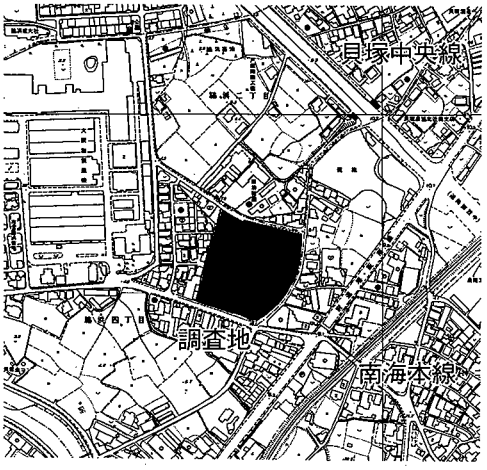
これらの遺構は、調査区２の南壁断面において検出した土坑である。出土遺物はなく、時期は不明である。撹乱によりSD－58との明確な先後関係は不明であるが、断面観察等によりSD－58よりも新しい時期に形成されたものと推測される。これら土坑の性格については不明である。

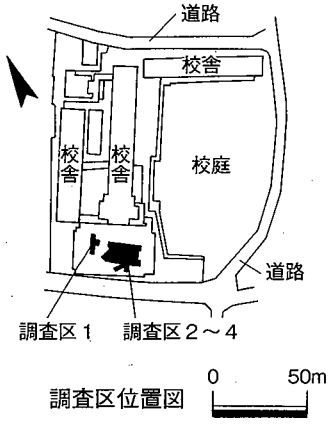
SX－75・76（図20）

これらの遺構は、調査区４北壁断面において検出した遺構である。SX－75の埋土は粗砂～砂質土を主体とし、SX－76の埋土は粘質シルトを主体としている。SX－75より遺物は出土していない。SX－76より瓦片１点が出土しているが、摩滅等により詳細は不明である。

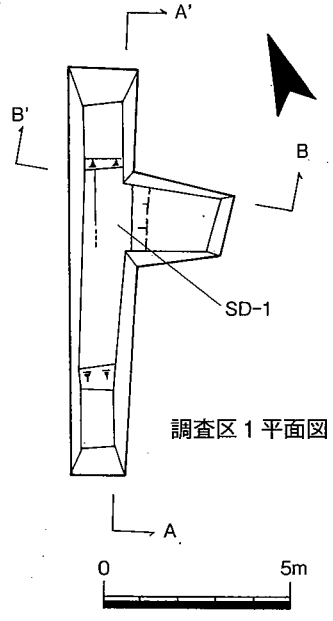
SX－75・76は、埋土の土質が異なるため、別の遺構としているが、同一遺構で掘り直し等が行われている可能性もある。

SX－75・76の時期や性格は不明であるが、SD－58と切り合い関係によりSD－58よりも古い。SD－58よりも先行する溝もしくは濠が調査区４南側に存在していた可能性もある。

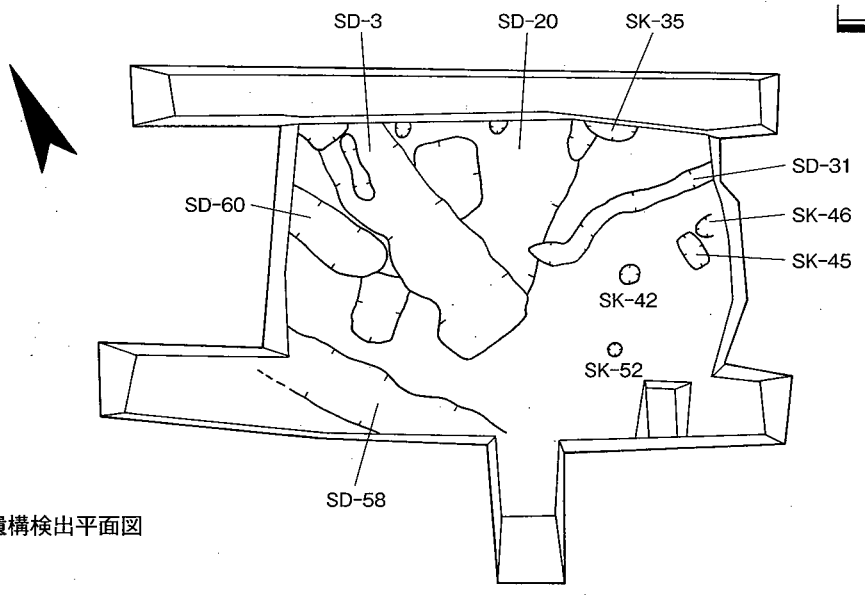




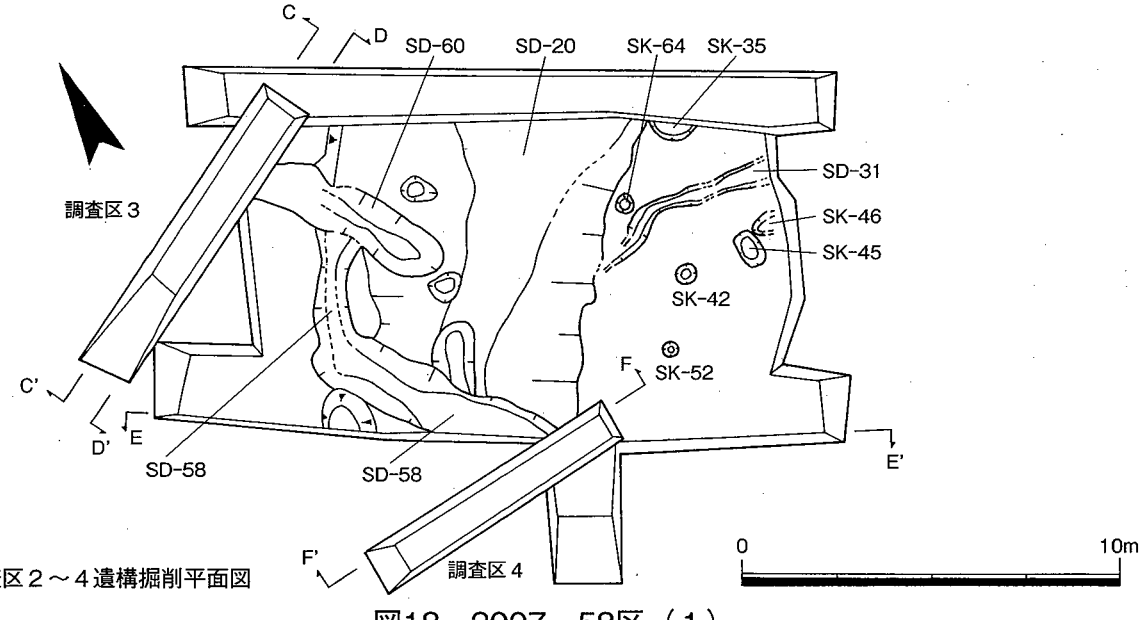
調査区位置図



調査区１平面図

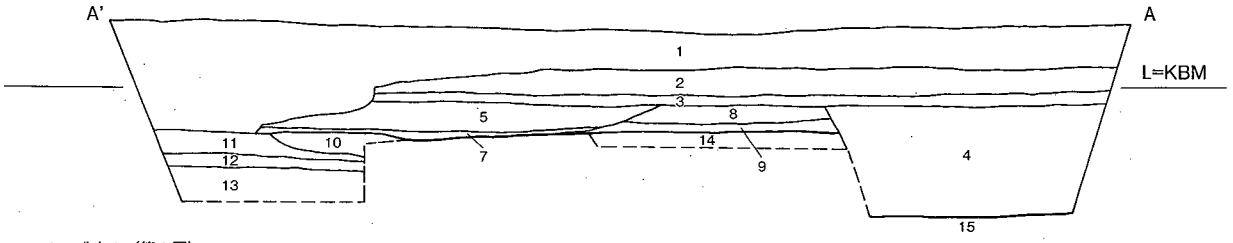


調査区２遺構検出平面図

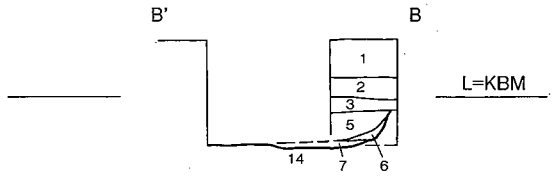


調査区２～４遺構掘削平面図

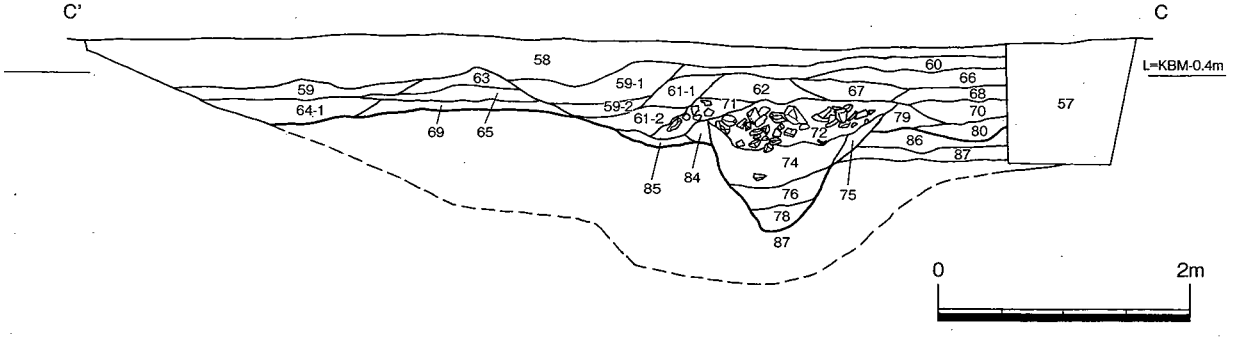
図18　2007－58区（１）

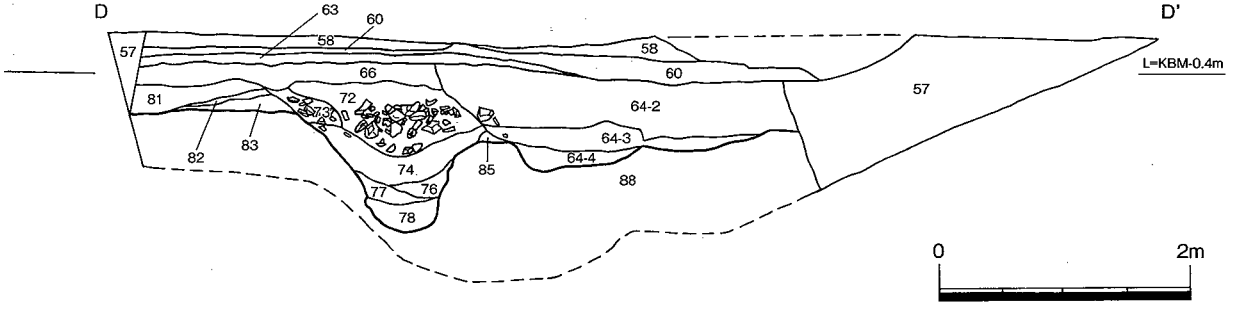


1：盛土１（第１層）
2：盛土２（第２層）
3：旧耕土（第３層）
4：撹乱
5：7.5Y4/1 灰色砂礫
6：10YR6/3 にぶい黄橙色細砂
7：5Y6/1 灰色砂質シルト
8：10YR5/2 灰黄褐色土
9：2.5Y6/2 灰黄色土
10：2.5Y7/3 浅黄色シルト
11：2.5Y6/3 にぶい黄色小砂礫
12：2.5Y7/2 灰黄色砂
13：10YR6/6 明黄褐色砂礫（第４層：地山）
14：10YR6/3 にぶい黄色小砂礫（第４層：地山）
15：10YR6/4 にぶい黄橙色砂礫（第４層：地山）



調査区１　断面図

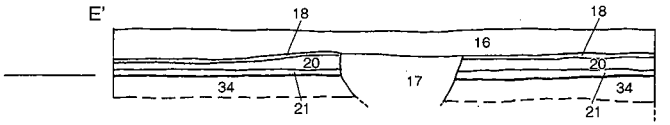




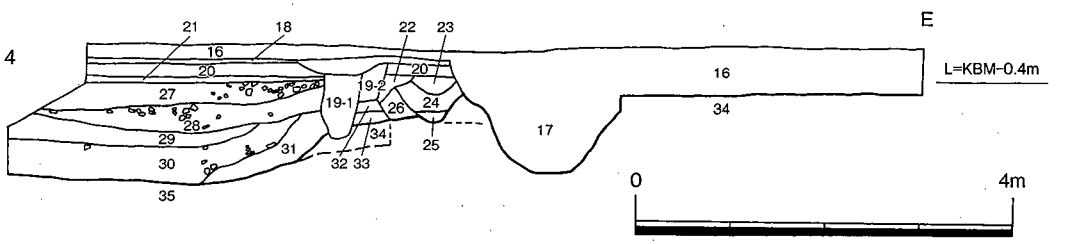
57：撹乱
58：盛土１（第１層）
59－1・2：撹乱
60：盛土２（黄色粘土　第１層）
61－1・2：撹乱
62：５Y5/1 灰色土
63－1・2：旧耕土１（第２層）
64－1～4：撹乱
65：旧耕土２
66：2.5Y7/1 灰白色砂質土（第３層）
67：2.5Y7/1 灰白色小砂礫混じり砂質土
68：2.5Y6/2 灰黄色砂質土
69：7.5YR5/2 灰黄褐色土
70：10YR6/1 褐灰色粘土混じり 10YR6/2 灰黄褐色砂質土
71：５Y6/2 灰オリーブ色礫混じり土
72：10YR6/3 にぶい黄橙色礫混じり砂質土（10～15㎝大の礫を多く含む）
73：10YR6/3 にぶい黄橙色礫混じり砂質シルト
74：7.5YR5/2 灰褐色粘土
75：10YR6/2 灰黄褐色粗砂混じり粘質土
76：7.5YR4/2 灰褐色小砂礫混じり粘土
77：7.5YR5/2 灰褐色砂礫混じり粘質シルト
78：10YR5/3 にぶい黄褐色粘質シルト
（SD－60）
79：10YR5/2 灰黄褐色粘質土
80：10YR5/2 灰黄褐色シルト
81：2.5Y6/2 灰黄色砂質土
82：2.5Y5/1 黄灰色シルト
83：2.5Y5/2 暗灰黄色シルト
84：10YR5/2 灰黄褐色粘質土
85：2.5Y6/2 灰黄色シルト
86：10YR5/1 褐灰色小砂礫
87：10YR7/3 にぶい黄橙色砂質シルト
88：10YR5/4 にぶい黄橙色礫
（第４層：地山）

調査区３　断面図

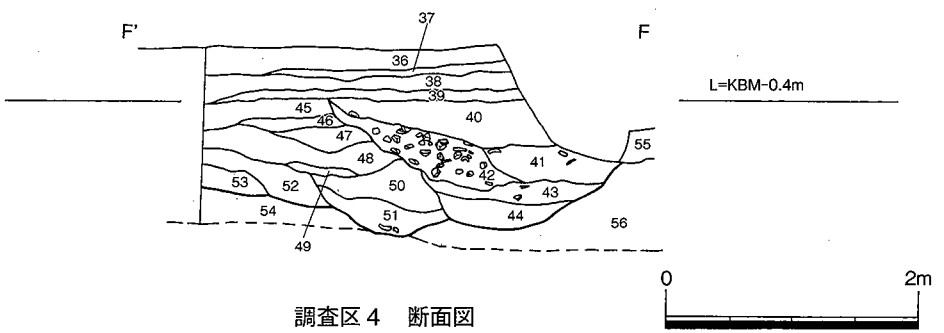
図19　2007－58区（２）



調査区４



16：盛土（第１層）
17：撹乱
18：盛土２（黄色粘土　第１層）
19－1・2：撹乱
20：旧耕土（第２層）
21：2.5Y6/1 黄灰色砂質土（第３層）
22：2.5Y6/2 灰黄色土（SK-72）
23：2.5Y5/2 暗灰黄色土
24：10YR3/1 黒褐色土混じり 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土　（SK-73）
25：2.5Y5/3 黄褐色粘質シルト
26：2.5Y5/1 黄灰色土混じり 2.5Y6/2 灰黄色土（SK-74）
27：10YR6/2 灰黄褐色粘質土
28：2.5Y6/3 にぶい黄色礫混じり粘土（5 ㎝大の礫を多く含む）
29：10YR6/3 にぶい黄橙色粘土（礫を含む）
30：10YR5/2 灰黄褐色礫混じり粘土（5 ㎝大の礫を多く含む）　（SD-58）
31：10YR5/3 にぶい黄褐色小砂礫混じり粘質シルト
32：10YR6/3 にぶい黄橙色粘質シルト
33：10YR5/2 灰黄褐色粗砂混じり粘質シルト
34：2.5Y7/6 明黄褐色シルト～粘質シルト（第４層：地山）
35：2.5Y5/6 黄褐色砂礫（第４層：地山）



調査区４　断面図

調査区２　断面図

36：盛土（第１層）
37：盛土２（第１層）
38：旧耕土（第２層）
39：2.5Y7/1 灰白色砂質土（第３層）
40：10YR6/2 灰黄褐色粘質土
41：10YR5/3 にぶい黄褐色粘質土（5 ㎝大の礫を含む）
42：10YR5/2 灰黄褐色礫混じり粘質シルト（5 ㎝大の礫・遺物を多く含む）　（SD-58）
43：10YR5/3 にぶい黄褐色礫混じり粘質土
44：2.5Y4/2 暗灰黄色小砂礫混じり砂質土
45：2.5Y6/1 黄灰色小砂礫混じり砂質土
46：2.5Y6/2 灰黄色粗砂混じり土　（SK-75）
47：2.5Y5/2 暗灰黄色小砂礫混じり土
48：2.5Y5/3 黄褐色粗砂混じり粘質土
49：2.5Y5/1 黄灰色小砂礫
50：2.5Y5/1 黄灰色小砂礫
51：10YR6/3 にぶい黄橙色粘質シルト　（SK-76）
52：10YR5/2 灰黄褐色粘質シルト
53：10YR5/2 灰黄褐色粗砂混じり粘質シルト
54：10YR6/3 にぶい黄橙色粘質シルト（第４層：地山）
55：2.5Y7/6 明黄褐色シルト（第４層：地山）
56：2.5Y5/6 黄褐色砂礫（第４層：地山）

図20　2007－58区（３）

出土遺物

1～4はSD－3より出土した須恵器である。1・2は坏蓋である。1はやや丸みのある天井部をもつ。2は天井部中央に凹みのあるつまみがつく。3は坏身であり、内傾する立ち上がりをもち、底部はやや扁平に仕上げる。4は高坏であり、脚部は失われている。須恵器は中村編年のⅡ型式3～4段階にあたるものと考えられる。

5～19はSD－58より出土した。

5・6は備前焼である。5は壺であり、口縁部はやや外傾し短く上方へのびる。体部の肩はあまり張らない。体部に1条の直線文がみられる。色調はにぶい橙色である。6は擂鉢である。口縁端部は上方へ大きく、下方にも小さく拡張する。卸目は7条1帯である。この他に備前甕も出土している。

7～9は羽釜である。7・9は瓦質、8は土師質である。10は瓦質擂鉢である。

11は鉄釉天目茶碗である。釉は2重にかけられている。

12～16は龍泉窯系青磁である。12・13・15・16は碗である。15の内面見込は露胎で草花文の型押を施す。外面の蓮弁文は簡略化される。16は内面見込に印花文を施す。14は稜花皿である。

17～19は瓦類である。17・18は軒丸瓦であり、左巻きの巴文で細い巴尾は次の巴胴部に接する。珠文は密である。19は連珠文の軒平瓦であり、このほかに唐草文も出土している。

SD－58の出土遺物において、今回掲載できなかったものに土師器小皿、瓦質甕の他には土師質真蛸壺と考えられる砲弾型の底部や羽口等が出土している。

まとめ

古墳時代以前

調査区2において、南西－北東方向の自然流路を検出した。流路の堆積層より遺物が出土していないため、埋没時期については不明である。

古墳時代

SD－3の溝状遺構やSD－31の溝、SK－42･52の土坑は、出土遺物や土質等により6世紀頃のものと推定され、自然流路の埋没後に当地において開発が始まったと考えられる。また、検出した土坑は柱穴ではないため、集落は調査区よりも北側もしくは東側に存在していた可能性がある。溝状遺構は古墳時代後期に埋没していたと考えられる。

中世

今回検出したSD－58・60については、その規模や断面形状により濠と考えられる。濠は出土遺物により中世後期に埋没したと考えられる。東西方向のSD－58は、調査区2南西端部で北方向へL字状に折れ曲がり、調査区2北西部で東西方向のSD－60と接続する。これらの濠の方向は正方位をとっていないことから、地形もしくは濠内側に存在したであろう建物の方位等に合わせて設けられたと考えられる。

濠は接続していることから同時期に存在していたと考えられる。ただし、濠の断面形状がSD－58はU字状で、SD－60はV字状であることから掘削には時間差もしくは掘削した作業集団が異なっていた可能性もある。SD－60は、SD－58の接続部よりもさらに東方向へ突き出ていることも複数の作業集団が掘削作業に従事していたとも考えられる。

濠の機能については、SD－58・60の堆積層より砂等の水流の痕跡は認められないことから、水路としての機能は有していなかったと推測される。また、粘土等の滞水層も認められないため、この濠は空濠であった可能性がある。

防御を目的と想定される溝（堀）が検出されている事例として、和泉市に所在する福瀬遺跡(1)、和気遺跡(2)がある。福瀬遺跡の溝の規模は幅3.5m、深さ1.5mであり、和気遺跡の溝の規模は幅約2m、深さ約1mであり、ともにV字状の断面形状である。

これらの事例とSD－58・60の規模とを比較すると小規模であるが、水路としての機能していないことやSD－60のV字状の断面形状から防御を目的とした濠であったと考えられる。

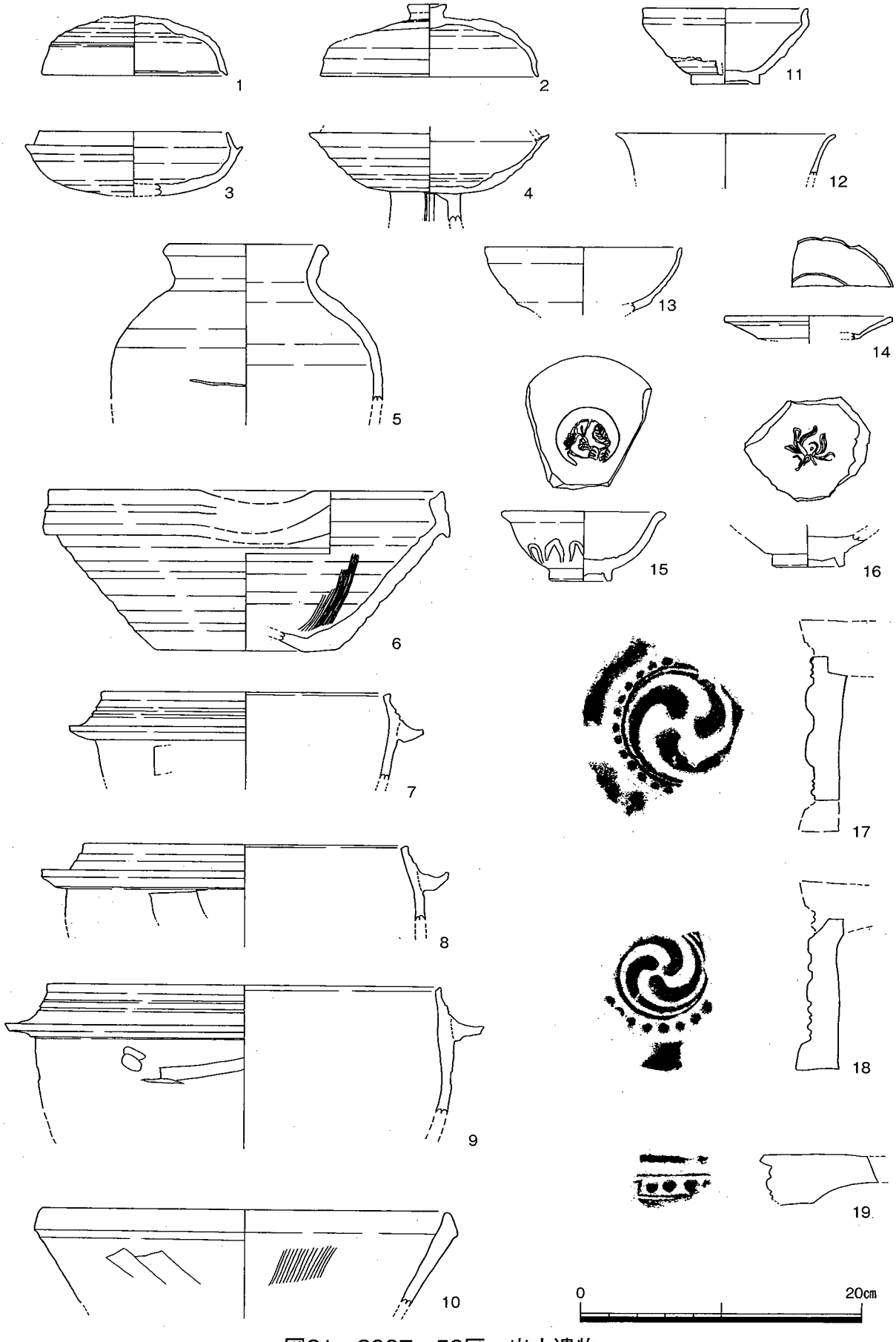


図21　2007－58区　出土遺物

濠は、多量の瓦（コンテナ18個分）や多量の礫とともに人為的に一度に埋め戻されたと考えられる。この濠を有した施設については、多量の瓦が出土していることから濠内側には瓦葺きの建物が存在していたことが想定される。また、この地には「長楽寺」、「長楽寺山」等の小字名が残っていることから、寺院が存在していた可能性がある。集落を区画したものとも考えられるが、瓦葺きの建物、V字状の断面形状の濠の存在、青磁碗等の出土遺物によりこの地域の有力者の屋敷地であった可能性もある。

いずれにしても、濠以外の建物等の遺構を検出していないため、濠の内側の構造については不明である。

濠に瓦とともに多量の礫が投棄されていることについては、5～10cm大の礫は調査地の西側を流れる近木川より採集されたものと考えられる。ただ、埋め戻すためだけにわざわざ河川の河原石を運ぶとは考えにくいため、濠の内側に石組み等の施設が存在していた可能性があり、その石組みを崩した際に不要となった礫を濠に投棄したと考えられる。

福瀬遺跡の溝（堀）においては、多量の礫が含まれていることから土塁の存在を指摘しているが、今回の調査では、土塁等の存在は確認できなかった。

土塁の他に濠に伴う施設として、門や柵が設けられていた可能性は十分に想定できるが、後世の土地の削平によりそれらの存在を確認することはできなかった。

長楽寺について

長楽寺については、現在、調査地より東へ約800mの位置に長楽寺が存在する。もと称名寺と号し、畠中村内の寺井戸（場所不明）に所在したが、庄屋を勤める要家の一族である帯屋道寿によって江戸時代に現所在地に移築して再建されたと伝えられている。再建された時期は明確ではないが、寛永12年（1635）から万治元年（1658）の間と考えられている。寺号については、長楽寺山に所在した長楽寺の寺号を移したといわれている。

長楽寺の元の所在地については、先述した「長楽寺」、「長楽寺山」、「長楽寺ハタ」等の小字名により本調査地周辺に存在していた可能性が指摘されている。

また、貝塚市史によれば、「廃長楽寺跡」において宝塔文軒丸瓦が出土しており、このことからも平安時代後期から末にかけての寺院が存在していたと想定されている。

2000（平成12）年に実施した長楽寺跡（小学校内）の調査事例では、耕作土から土師器碗等が多く出土しているほか、焼土や炭化物がまとまって検出されている。出土遺物や焼土等の検出により遺物包含層が存在していた可能性があり、耕地開発によって削平されたものと考えられる。遺構は検出されておらず、建物等の存在は確認されていない。しかし、今回の調査地が位置する小学校内において、宝塔文軒丸瓦や土師器等の出土遺物、焼土等が検出されていること、本調査において中世後期の遺物が出土した濠から、寺院もしくは何らかの施設が存在していたことが想定される。

濠（SD－58・60）より出土した遺物が中世後期のもの中心であり、近世の遺物は含まれていない。このことから濠の埋没時期と現所在地に再建されたとされる時期とでは時期差がある。

調査地に長楽寺が存在していたと仮定した場合、平安後期に創建された長楽寺は中世後期には多量の瓦類が濠に投棄されていることから、少なくとも中世後期から末期には廃寺状態になっていた可能性がある。その後、廃寺となった長楽寺を江戸時代に現所在地へ移築もしくは寺号を移したものと推測される。

今回の調査では、長楽寺に関する考古学的な証拠は確認できず、また濠と寺院を直接結びつける成果も得ることはできなかった。さらに防御を目的とする濠が寺院に必要であったのかという疑問も残ることから地域の社会的背景も含め、今後の検討課題としたい。（木嶋）

註

(1) （財）大阪府埋蔵文化財協会 「福瀬遺跡－主要地方道枚方・富田林・泉佐野線建設に伴う－」1989年

(2) 和気遺跡調査会 「和気」 1979年

第3章　平成5年・平成6年の調査

国庫補助事業による平成5年（1993年）・平成6年（1994年）の発掘調査について、概要報告書より一部抜け落ちた調査分があり、改めてここに一覧と位置図を掲載する。

	遺跡名	調査番号	遺跡略号	開発地	報告済（○）
（平成5年度）					
1	秦廃寺	第1調査区	HT	半田709	○
2	加治・神前・畠中遺跡	第2調査区	KKH	加神1－36－2	
3	貝塚寺内町遺跡	第3調査区	JN	北町423－1、481	
4	沢城跡	第4調査区	SJ	浦田143	
5	積善寺城跡	第5調査区	SZJ	橋本字西出44	
6	貝塚寺内町遺跡	第6調査区	JN	南町1123、1126	○
7	加治・神前・畠中遺跡	第7調査区	KKH	石才149－1	
8	新井・鳥羽北遺跡	第8調査区	NTK	新井75－5	
9	積善寺城跡	第9調査区	SZJ	橋本129	
10	積善寺城跡	第10調査区	SZJ	橋本99－2	
11	麻生中下代遺跡	第11調査区	ANS	麻生中1185－1	
12	石才南遺跡	第12調査区	ISS	麻生中430－4	
13	加治・神前・畠中遺跡	第13調査区	KKH	畠中2－436・4	
14	貝塚寺内町遺跡	第14調査区	JN	南町1283他	
15	貝塚寺内町遺跡	第15調査区	JN	北町21－17	
16	福田遺跡	第16調査区	FD	海塚56－1	
17	石才南遺跡	第17調査区	ISS	麻生中462－2他	
18	貝塚寺内町遺跡	第18調査区	JN	中1543	
（平成6年度）					
1	加治・神前・畠中遺跡	第1調査区	KKH	加神2－138	
2	貝塚寺内町遺跡	第2調査区	JN	中926－1	
3	貝塚寺内町遺跡	第3調査区	JN	中1529－8	
4	加治・神前・畠中遺跡	第4調査区	KKH	加神2－237－6	
5	沢城跡	第5調査区	SJ	沢674－1	
6	津田遺跡	第6調査区	TD	堀3－789・4	
7	貝塚寺内町遺跡	第7調査区	JN	中932－1他	
8	貝塚寺内町遺跡	第8調査区	JN	南町1405	
9	加治・神前・畠中遺跡	第9調査区	KKH	加神1－479	
10	貝塚寺内町遺跡	第10調査区	JN	南町1190	
11	貝塚寺内町遺跡	第11調査区	JN	北町50－1、2	
12	加治・神前・畠中遺跡	第12調査区	KKH	加神1－124－15	
13	貝塚寺内町遺跡	第13調査区	JN	脇浜332	
14	積善寺城跡	第14調査区	SZJ	橋本103－3	
15	貝塚寺内町遺跡	第15調査区	JN	南町1250－4	
16	貝塚寺内町遺跡	第16調査区	JN	南町1333	
17	地蔵堂遺跡	第17調査区	GZZ	堤89－3	
18	貝塚寺内町遺跡	第18調査区	JN	南町1334－2	
19	加治・神前・畠中遺跡	第19調査区	KKH	加神1－23	
20	沢タナジリ遺跡	第20調査区	ST	沢819－8	
21	積善寺城跡	第21調査区	SZJ	橋本48－1	
22	貝塚寺内町遺跡	第22調査区	JN	西町777	
23	新井ノ池遺跡	第23調査区	NI	麻生中840－4	

表2. 平成5年・平成6年国庫補助事業一覧

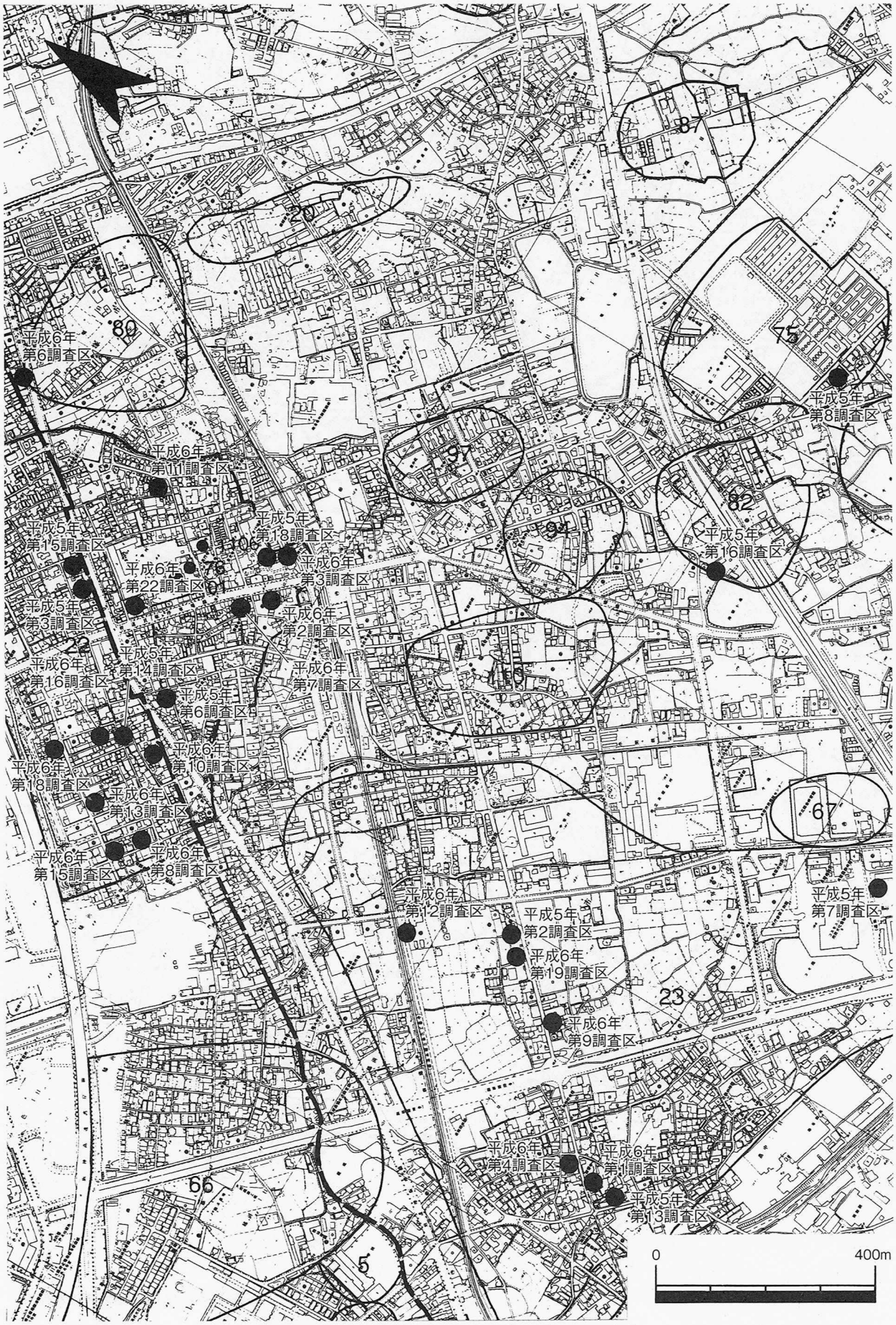


図22　調査地位置図（平成５年・６年）

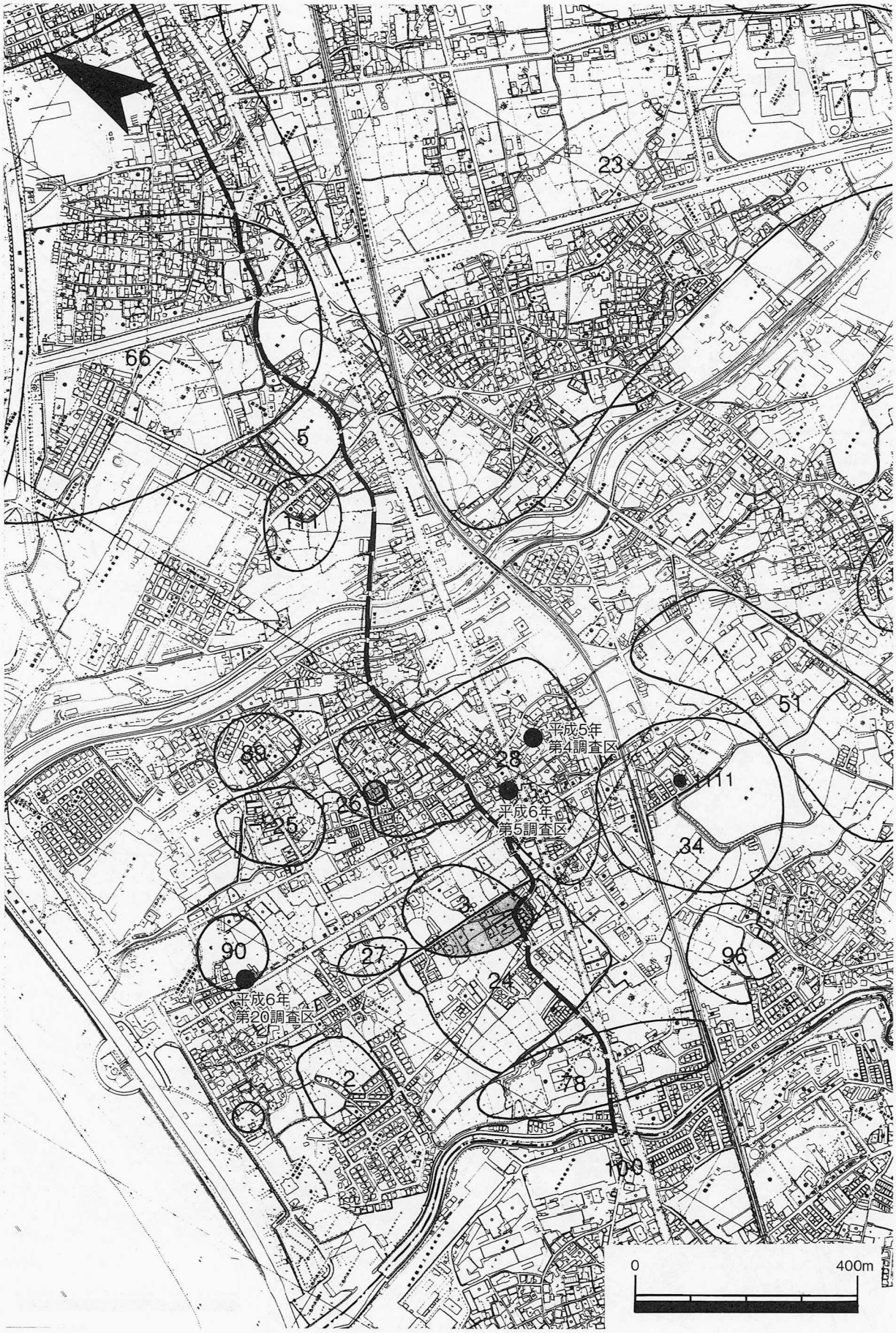


図23　調査地位置図（平成５年・６年）

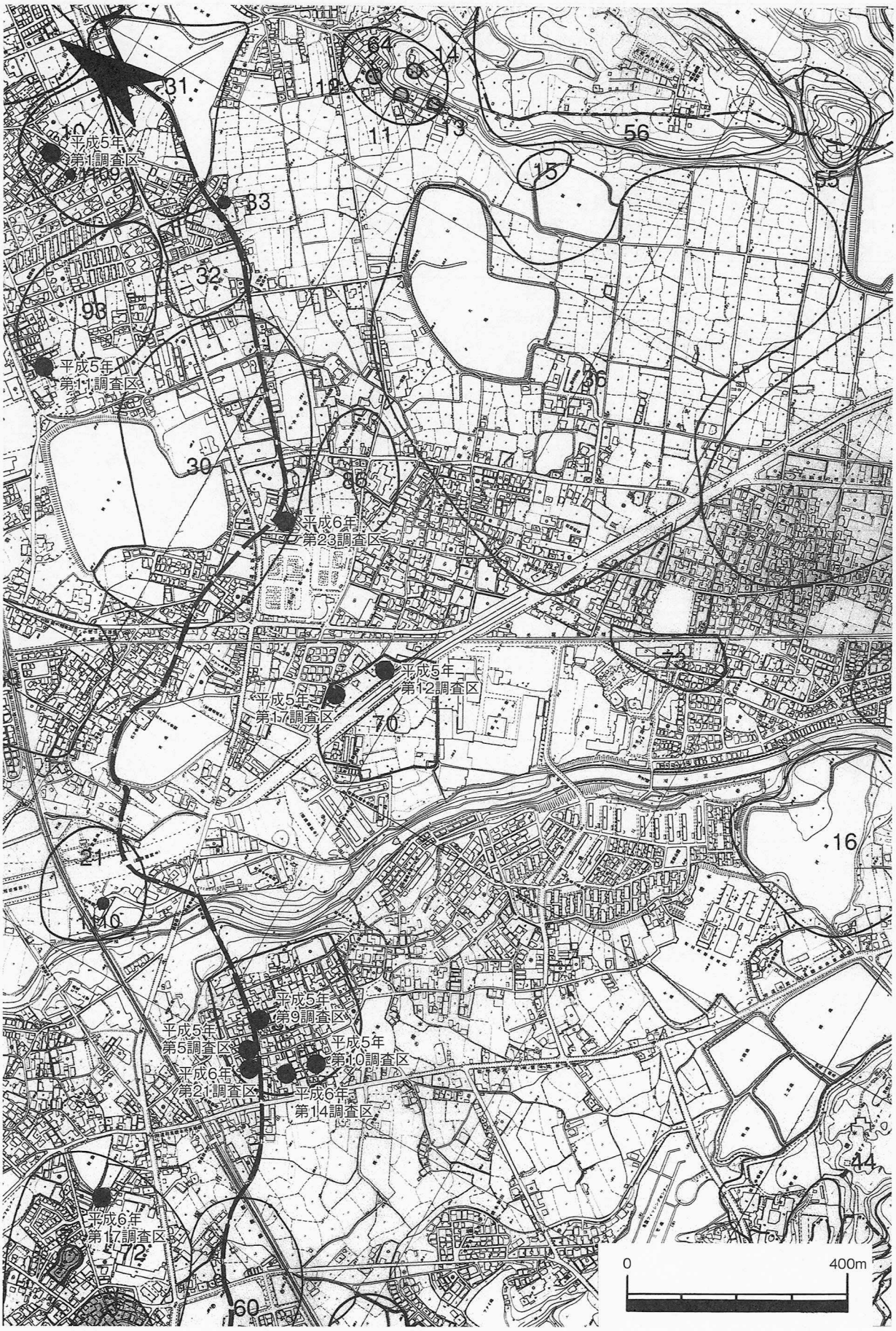


図24　調査地位置図（平成５年・６年）

報告書抄録	
ふりがな	かいづかしいせきぐんはっくつちょうさがいよう
書名	貝塚市遺跡群発掘調査概要
副書名	
巻次	31
シリーズ名	貝塚市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第77集
編著者名	三浦基　上野裕子　木嶋崇晴
編集機関	貝塚市教育委員会
所在地	〒597－8585　大阪府貝塚市畠中１－17－１　TEL072－423－2151
発行年月日	西暦2009年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市 町村	遺跡番号					
なごせいせき 名越遺跡	大阪府貝塚市 せちご 清児	27208	71	34度25分 33秒	135度22分 31秒	2008 0218	3.75	個人住宅
みけやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松	27208	69	34度24分 27秒	135度23分 1秒	2008 0305	4.4	個人住宅
ちょうらくじあと 長楽寺跡	大阪府貝塚市 わきはま 脇浜	27208	5	34度26分 23秒	135度20分 52秒	2008 0311～0331	214.75	体育館
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 じぞうどう 地蔵堂	27208	72	34度25分 41秒	135度21分 16秒	2008 0318	8.4	個人住宅
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	大阪府貝塚市 はしもと 橋本	27208	35	34度25分 38秒	135度21分 46秒	2008 0325	4	個人住宅
こつみかんのんじあと 木積観音寺跡	大阪府貝塚市 こつみ 木積	27208	18	34度23分 51秒	135度23分 37秒	2008 0526	3.9	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 つつみ 堤	27208	72	34度25分 43秒	135度21分 29秒	2008 0528	4.5	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 じぞうどう 地蔵堂	27208	72	34度25分 43秒	135度21分 14秒	2008 0611	14.5	個人住宅
こつみかんのんじあと 木積観音寺跡	大阪府貝塚市 こつみ 木積	27208	18	34分23分 55秒	135度23分 35秒	2008 0613	8.9	個人住宅
さわにしいせき 沢西遺跡	大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	78	34分25分 46秒	135度20分 29秒	2008 0819	6	個人住宅
いせきはんいがい 遺跡範囲外	大阪府貝塚市 くぼ　はんだ 久保、半田	27208	0000	34分26分 40秒	135度22分 50秒	2008 0902	9	個人住宅
あそなかいせき 麻生中遺跡	大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	32	34度26分 4秒	135度22分 26秒	2008 0911～0912	15	個人住宅
さわじょうあと 沢城跡	大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	28	34度26分 4秒	135度20分 37秒	2008 0916	9.45	個人住宅
ほりあきげいせき 堀秋毛遺跡	大阪府貝塚市 うみづか 海塚	27208	94	34度26分 40秒	135度21分 42秒	2008 0917～0918	6	個人住宅
あそなかいせき 麻生中遺跡	大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	32	34度26分 5秒	135度22分 27秒	2008 0924～0925	10.5	個人住宅
もりBいせき 森B遺跡	大阪府貝塚市 もり 森	27208	40	34度24分 57秒	135度23分 2秒	2008 1021～1022	12	個人住宅
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 22秒	135度21分 12秒	2008 1023	4	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
なごせいせき 名越遺跡	散布地				
みけやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	散布地				
ちょうらくじあと 長楽寺跡	寺院跡	奈良時代、中世	溝、土坑、濠、自然流路	土師器、瓦器、須恵器、陶磁器、瓦	
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡	近代		瓦、陶器	
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	城跡	中世	濠	瓦	
こつみかんのんじあと 木積観音寺跡	寺院跡、集落跡	中世	鋤溝	土師器、須恵器、瓦器	
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡				
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡	近世		瓦、磁器	
こつみかんのんじあと 木積観音寺跡	寺院跡、集落跡	中世	鋤溝、溝	土師器、瓦器	
さわにしいせき 沢西遺跡	集落跡		流路		
いせきはんいがい 遺跡範囲外			河川		
あそなかいせき 麻生中遺跡	集落跡	中世	鋤溝	土師器、瓦器、瓦	
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡	中世	鋤溝、溝、柱穴、杭跡、土坑	土師器、瓦器、須恵器、瓦	
ほりあきげいせき 堀秋毛遺跡	集落跡	近世、近代	流路	陶磁器、瓦	
あそなかいせき 麻生中遺跡	集落跡	中世	鋤溝	土師器、瓦器、須恵器、銅銭	
もりBいせき 森B遺跡	散布地	中世	鋤溝	土師器、瓦器	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡				

平成5年の調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
はたはいじ 秦廃寺	大阪府貝塚市 はんだ 半田	27208	10	34度26分 17 秒	135度22分 25秒	1993 0527～0528・0531	25	個人住宅
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 27秒	135度21分 17秒	1993 0616～0617	19	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34度26分 59秒	135度21分 23秒	1993 0621～0622	9	個人住宅
さわじょうあと 沢城跡	大阪府貝塚市 うらた 浦田	27208	28	34度26分 3秒	135度20分 42秒	1993 0629	4	個人住宅
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	大阪府貝塚市 はしもと 橋本	27208	35	34度25分 39秒	135度21分 38秒	1993 0630	23	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 51秒	135度21分 19秒	1993 0708～0709	66	個人住宅
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 いしざい 石才	27208	23	34度26分 10秒	135度21分 34秒	1993 0830～0901	15	個人住宅
にい・とばきたいせき 新井・鳥羽北遺跡	大阪府貝塚市 にい 新井	27208	75	34分26分 28秒	135度22分 3秒	1993 0910	11	個人住宅
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	大阪府貝塚市 はしもと 橋本	27208	35	34度25分 40秒	135度21分 42秒	1993 1015・1018	10	個人住宅
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	大阪府貝塚市 はしもと 橋本	27208	35	34度25分 36秒	135度21分 40秒	1993 1020～1021	7	個人住宅
あそなかしもだいいせき 麻生中下代遺跡	大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	93	34度26分 10秒	135度22分 12秒	1993 1117	4	個人住宅
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	70	34度25分 42秒	135度22分 2秒	1993 1124～1125	63	個人住宅
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 はたけなか 畠中	27208	23	34度26分 13秒	135度21分 5秒	1993 1202～1203	10	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 49秒	135度21分 11秒	1994 0124～0125	12	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34分27分 0秒	135度21分 23秒	1994 0126～0127	14	個人住宅
ふくだいせき 福田遺跡	大阪府貝塚市 うみづか 海塚	27208	82	34度26分 28秒	135度21分 47秒	1994 0131～0201	16	個人住宅
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	70	34度25分 46秒	135度22分 3秒	1994 0208～0209	23	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 なか 中	27208	22	34度26分 50秒	135度21分 31秒	1994 0310～0311	10	個人住宅

平成６年の調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北　緯	東　経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 15秒	135度21分 6秒	1994 0411～0412	16	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 なか 中	27208	22	34度26分 49秒	135度21分 29秒	1994 0414～0415	30	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 なか 中	27208	22	34度26分 51秒	135度21分 31秒	1994 0420～0422	25	個人住宅
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 18秒	135度21分 6秒	1994 0519～0520	10	個人住宅
さわじょうあと 沢城跡	大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	28	34度26分 3秒	135度20分 37秒	1994 0524～0525	24	個人住宅
つだいせき 津田遺跡	大阪府貝塚市 ほり 堀	27208	80	34度27分 18秒	135度21分 44秒	1994 0526～0527	15	個人住宅

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北　緯	東　経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 なか 中	27208	22	34度26分 50秒	135度21分 28秒	1994 0608・0610	10.5	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 48秒	135度21分 10秒	1994 0614	9	個人住宅
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 22秒	135度21分 14秒	1994 0616～0617	15	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 47秒	135度21分 14秒	1994 0622	20	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34度26分 55秒	135度21分 34秒	1994 0718～0719	12	個人住宅
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	22	34度26分 32秒	135度21分 14秒	1994 0801～0802	9	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 わきはま 脇浜	27208	22	34度26分 52秒	135度21分 11秒	1994 0803～0805	15	個人住宅
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	大阪府貝塚市 はしもと 橋本	27208	35	34度25分 36秒	135度21分 39秒	1994 0913～0914	9	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 48秒	135度21分 7秒	1994 1108～1109	15	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 53秒	135度21分 14秒	1994 1205～1206	26	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 つつみ 堤	27208	72	34度25分 42秒	135度21分 24秒	1994 0803～0805	12	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 55秒	135度21分 11秒	1994 1221～1222	21	個人住宅
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 かしん 加神	27208	23	34度26分 26秒	135度21分 17秒	1995 0117～0118	7.5	個人住宅
さわ　いせき 沢タナジリ遺跡	大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	90	34度26分 11秒	135度20分 16秒	1995 0119～0120	22	個人住宅
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	大阪府貝塚市 はしもと 橋本	27208	35	34度25分 39秒	135度21分 38秒	1995 0130～0131	24	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 にしまち 西町	27208	22	34度26分 55秒	135度21分 25秒	1995 0206	21	個人住宅
にいのいけいせき 新井ノ池遺跡	大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	30	34度25分 54秒	135度22分 13秒	1995 0309	7	個人住宅

平成５年度

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
はたはいじ 秦廃寺	寺院跡	中世	溝１条、土坑４基	土師器、瓦器、瓦	
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世	土坑１基、鋤溝３条、柱穴７基	土師器、瓦器	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑５基	陶器、磁器	
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡	中世	土坑２基	土師器、瓦器、瓦	
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	城跡	中世	土坑７基、溝２条	土師器、瓦器、瓦	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		陶器、磁器	
かじ　こうざき　はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世	鋤溝１条	土師器、瓦器	
にい・とばきたいせき 新井・鳥羽北遺跡	集落跡	近世	溝１条	土師器、瓦器、磁器	
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	城跡	中世	土坑３基	土師器、瓦器	
しゃくぜんじじょうあと 積善寺城跡	城跡	中世	土坑１基、溝１条	土師器、瓦器	

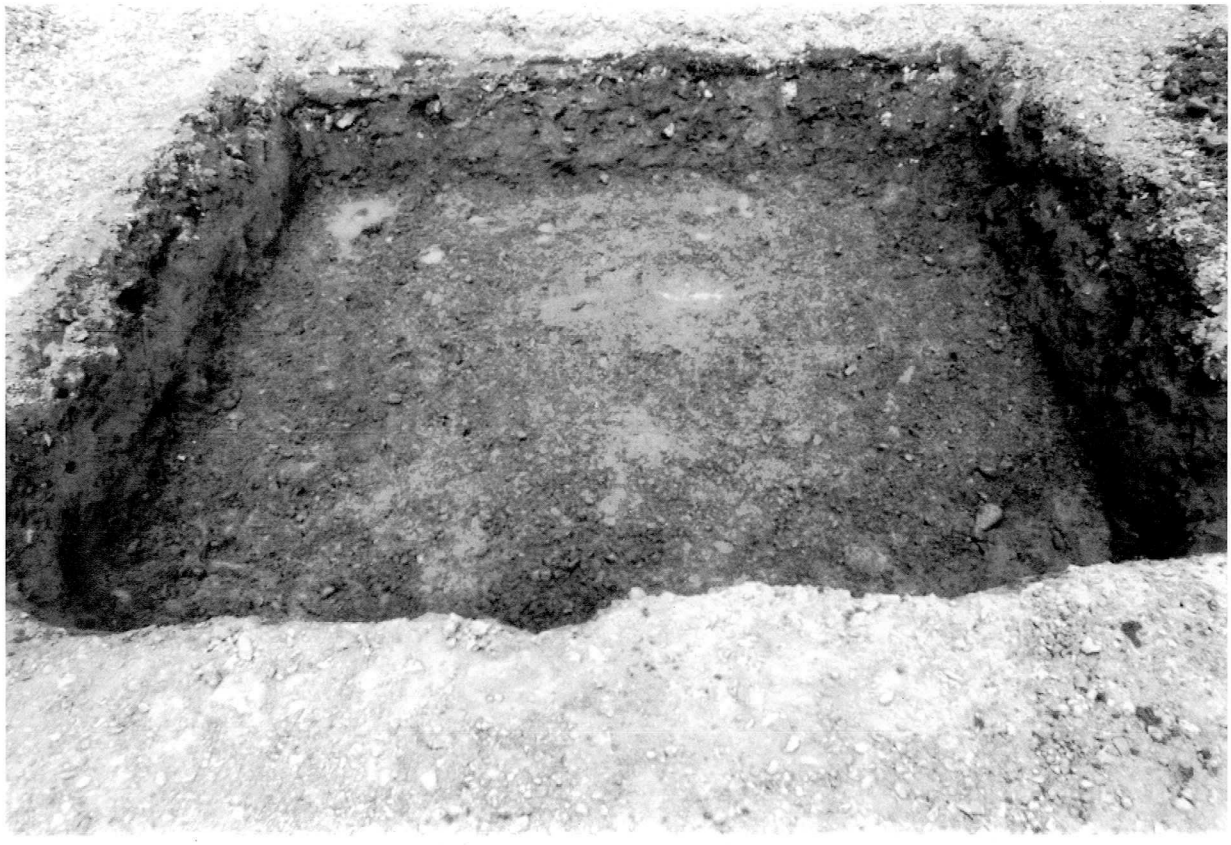
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
麻生中下代遺跡	集落跡	中世	杭２基	土師器、瓦器	
石才南遺跡	集落跡	弥生時代、古墳時代、中世	溝２条	弥生土器、土師器、須恵器、瓦器	
加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑１基、溝１条	陶器、磁器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑１基、溝１条	陶器、磁器	
福田遺跡	集落跡	中世	土坑１基、溝１条	瓦器、土師器	
石才南遺跡	集落跡	弥生時代、古墳時代、中世	溝４条、ピット４基	弥生土器、須恵器、土師器、瓦器、石器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	廃棄土坑１基	陶器、磁器、瓦	

平成６年度

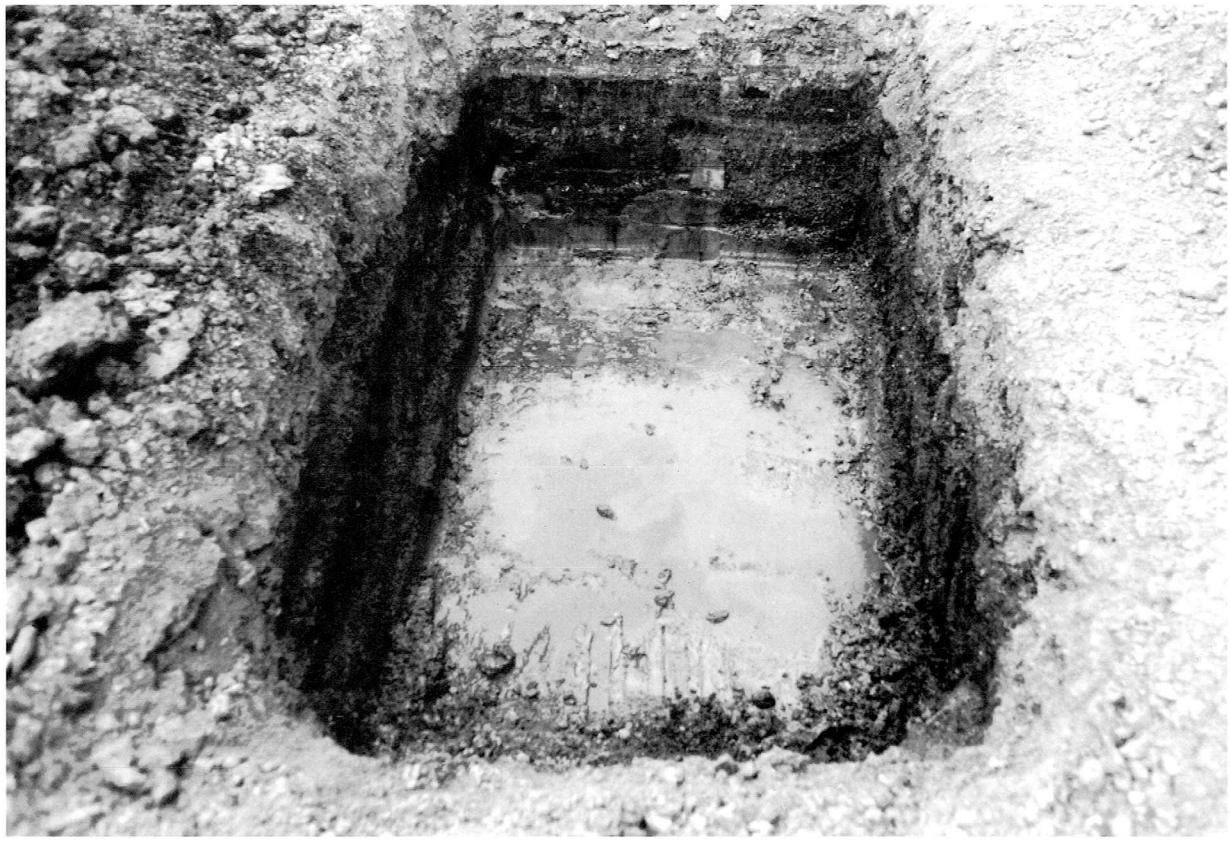
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世、近世	土坑３基、溝３条	土師器、陶器、磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑４基、溝２条	陶器、磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	溝３条	陶器、磁器、瓦	
加治・神前・畠中遺跡	集落跡	近世	土坑４基、溝１条	土師器、陶磁器、瓦	
沢城跡	城跡、集落跡	中世	土坑１基、溝１条	土師器、瓦器	
津田遺跡	集落跡、窯跡	近世	土坑１基	陶磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑４基、溝２基	陶器、磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	ピット１基	陶器、磁器、瓦	
加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑３基	陶器、磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑２基、溝１条	陶器、磁器、瓦	
加治・神前・畠中遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑２基、石垣	陶器、磁器、瓦	
積善寺城跡	城跡	中世、近世	溝３条、鋤溝４条	土師器、瓦器、磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑２基、溝１条	陶器、磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		陶器、磁器、瓦	
地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡		溝１条	土師器、須恵器、瓦器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑３基	陶器、磁器、瓦	
加治・神前・畠中遺跡	集落跡				
沢タナジリ遺跡	集落跡		土坑３基、ピット３基		
積善寺城跡	城跡	中世、近世	土坑１基	瓦器、土師器、磁器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑	磁器、陶器、瓦	
新井ノ池遺跡	集落跡	近世		磁器碗	

図　　版

図版1　遺跡範囲外（2008－15区）・加治・神前・畠中遺跡（2008－29区）

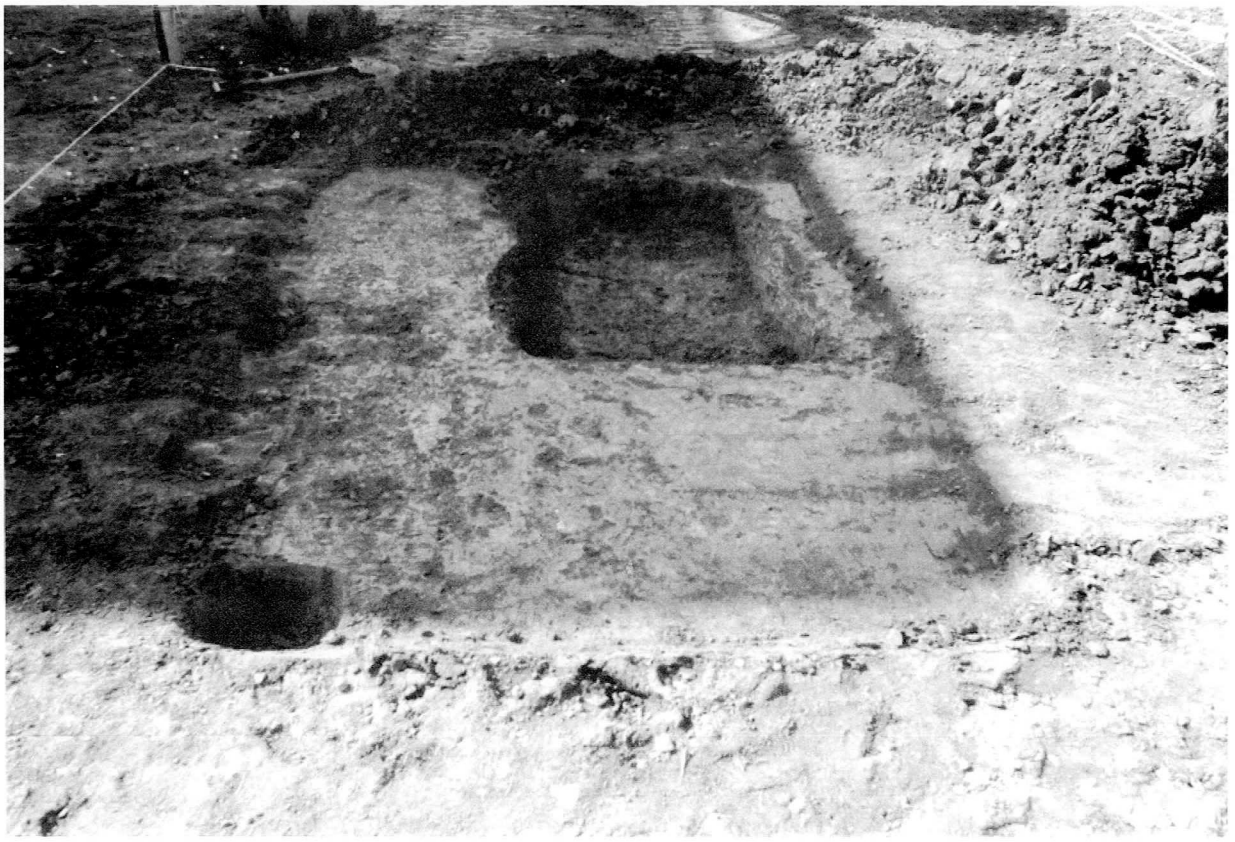


1．2008－15区　完掘状況　（西より）

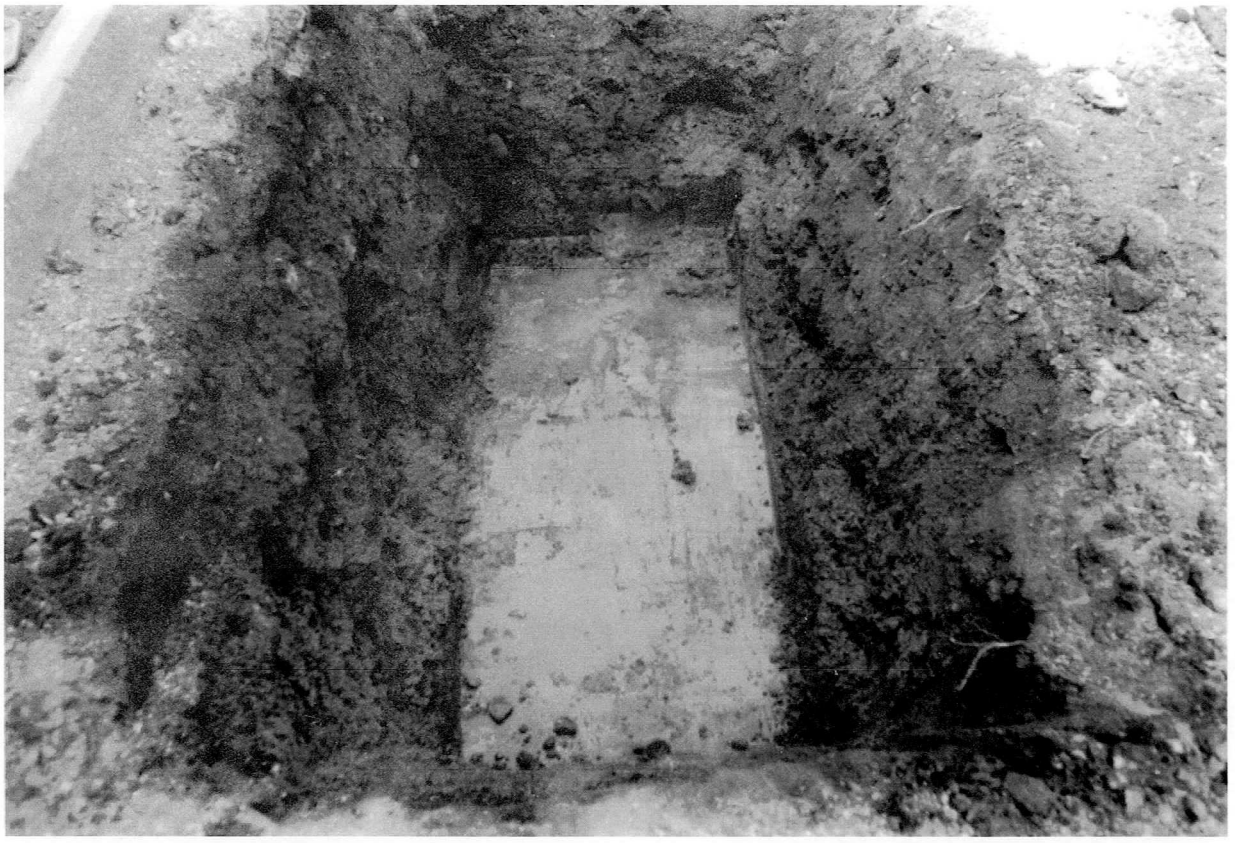


2．2008－29区　完掘状況　（北より）

図版2　地蔵堂遺跡（2007－62区・2008－5区）

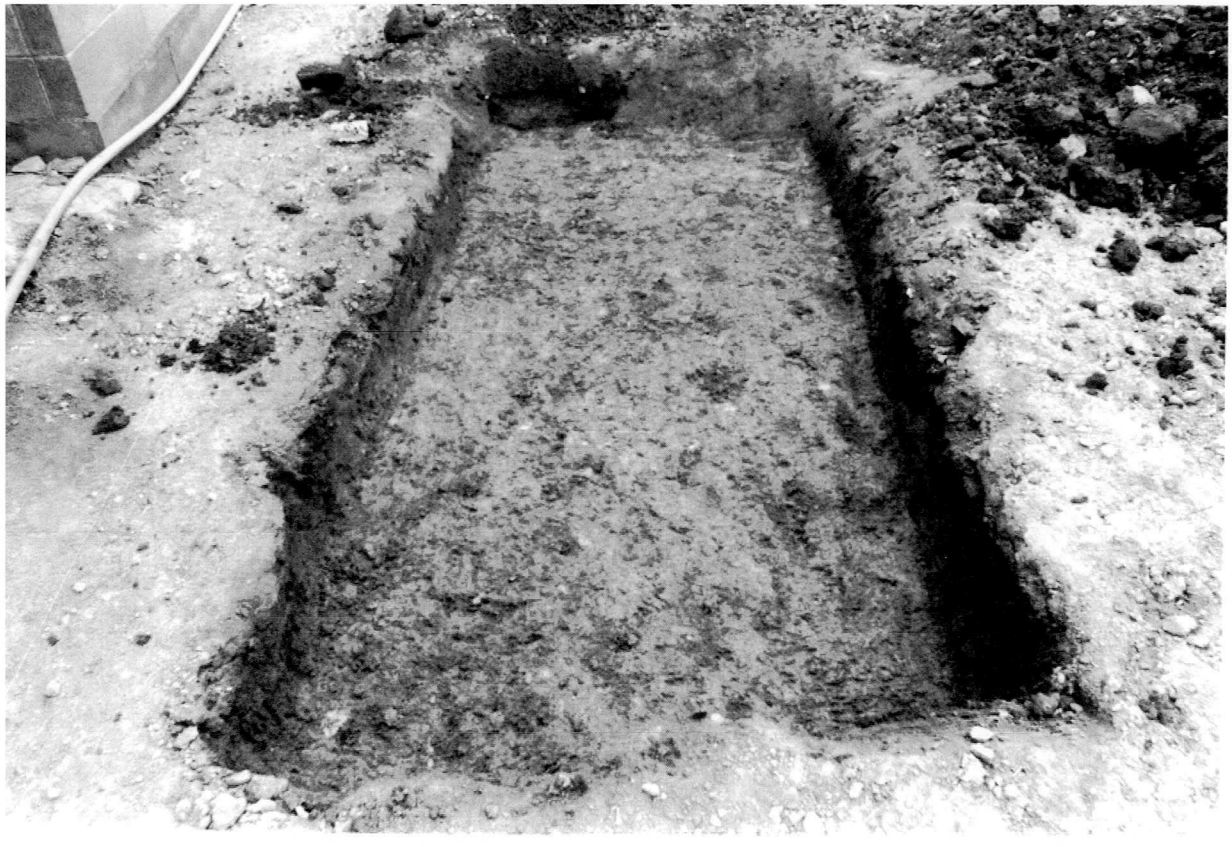


1．2007－62区　完掘状況　（北より）



2．2008－5区　完掘状況　（東より）

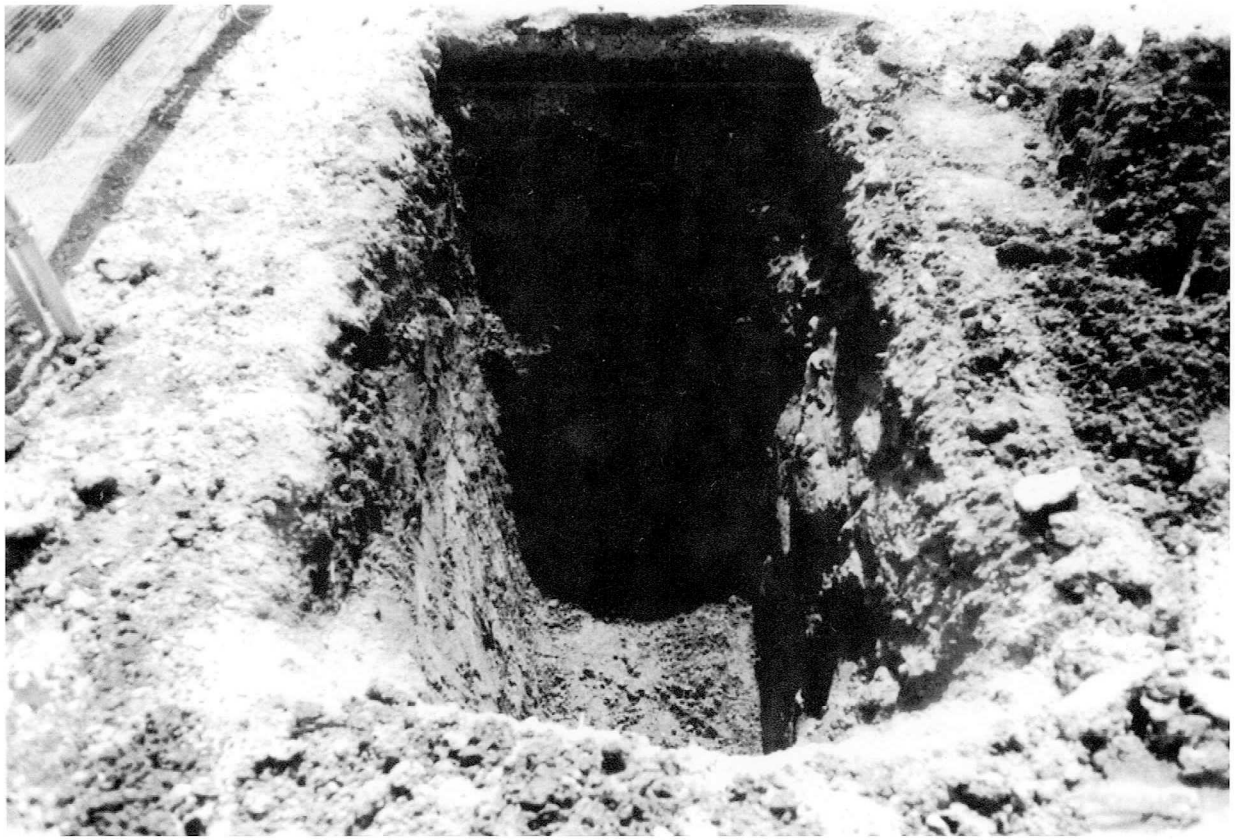
図版3　地蔵堂遺跡（2008－8区）



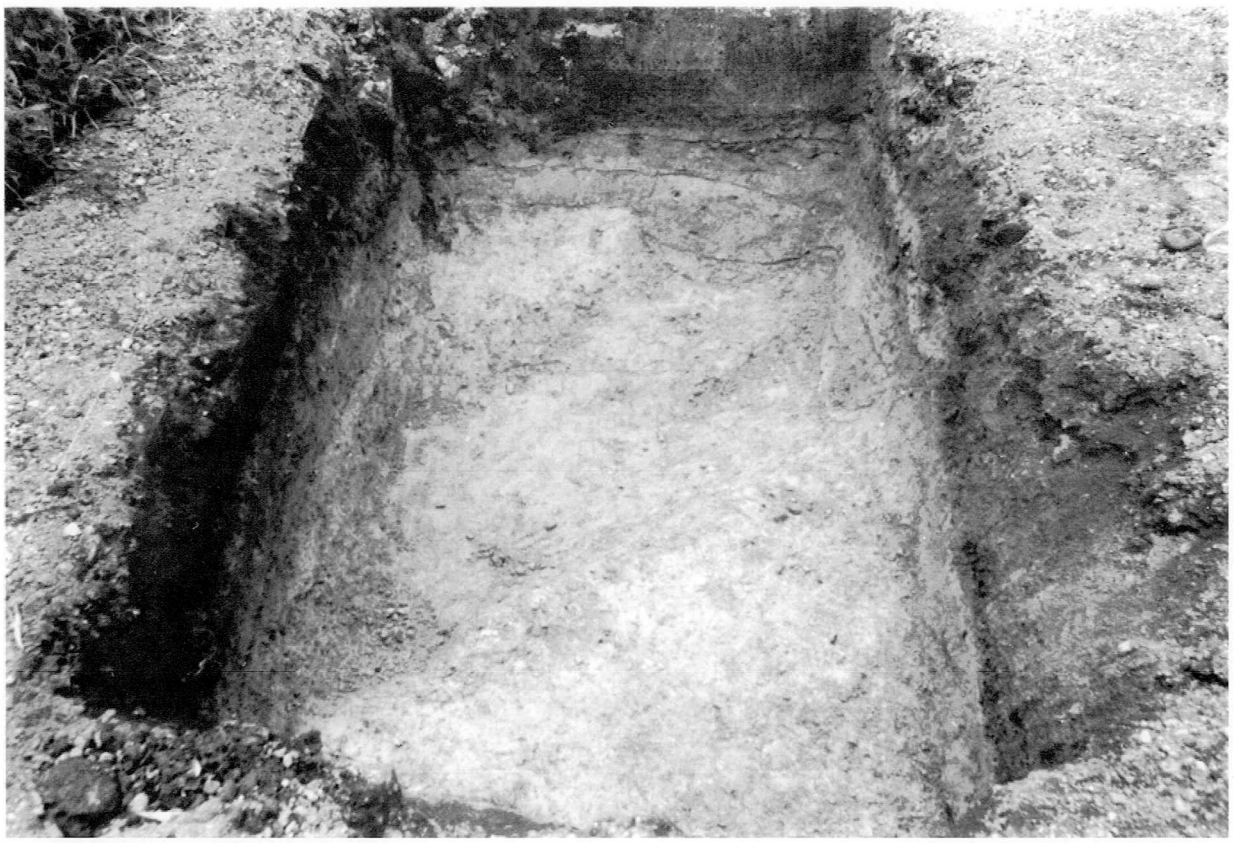
1．2008－8区　調査区1　完掘状況　（南より）

2．2008－8区　調査区2　完掘状況　（東より）

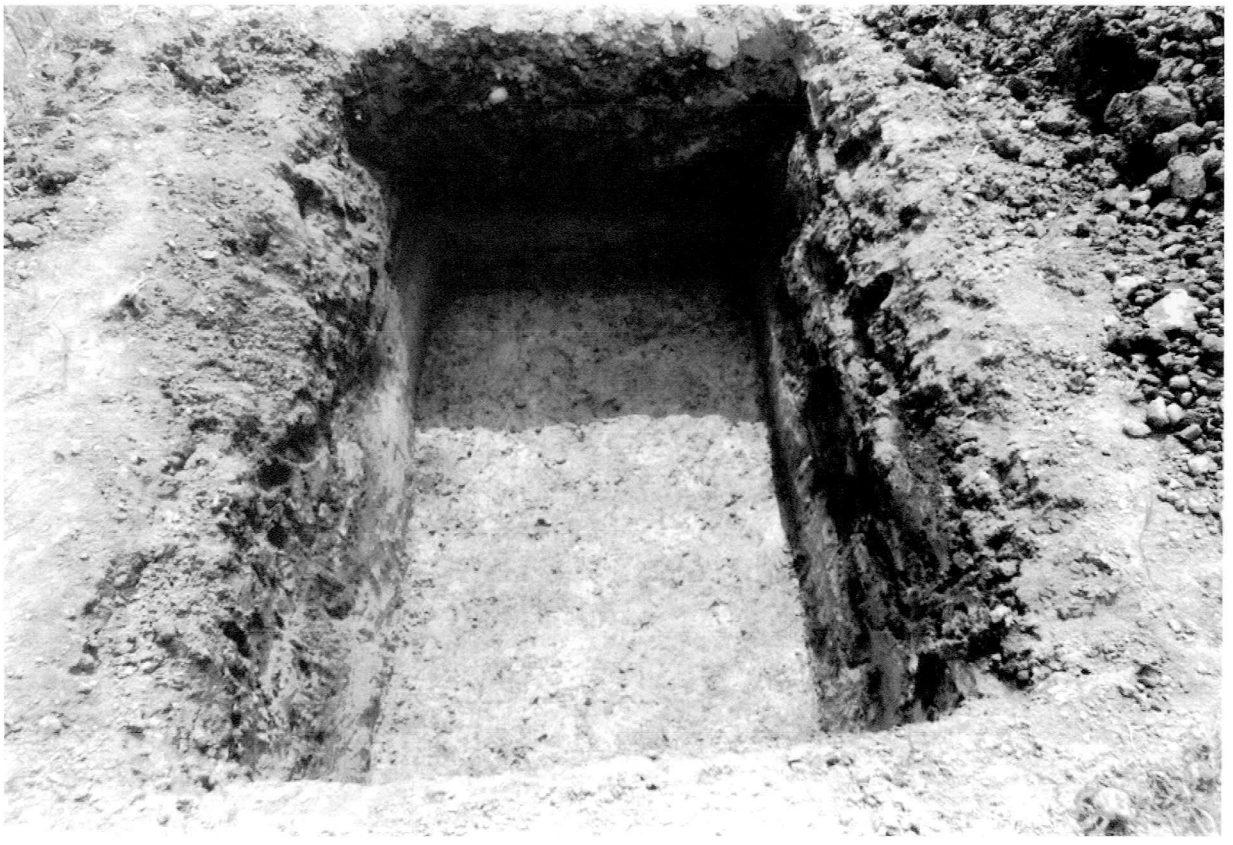
図版4　積善寺城跡（2007－63区）・堀秋毛遺跡（2008－19区）



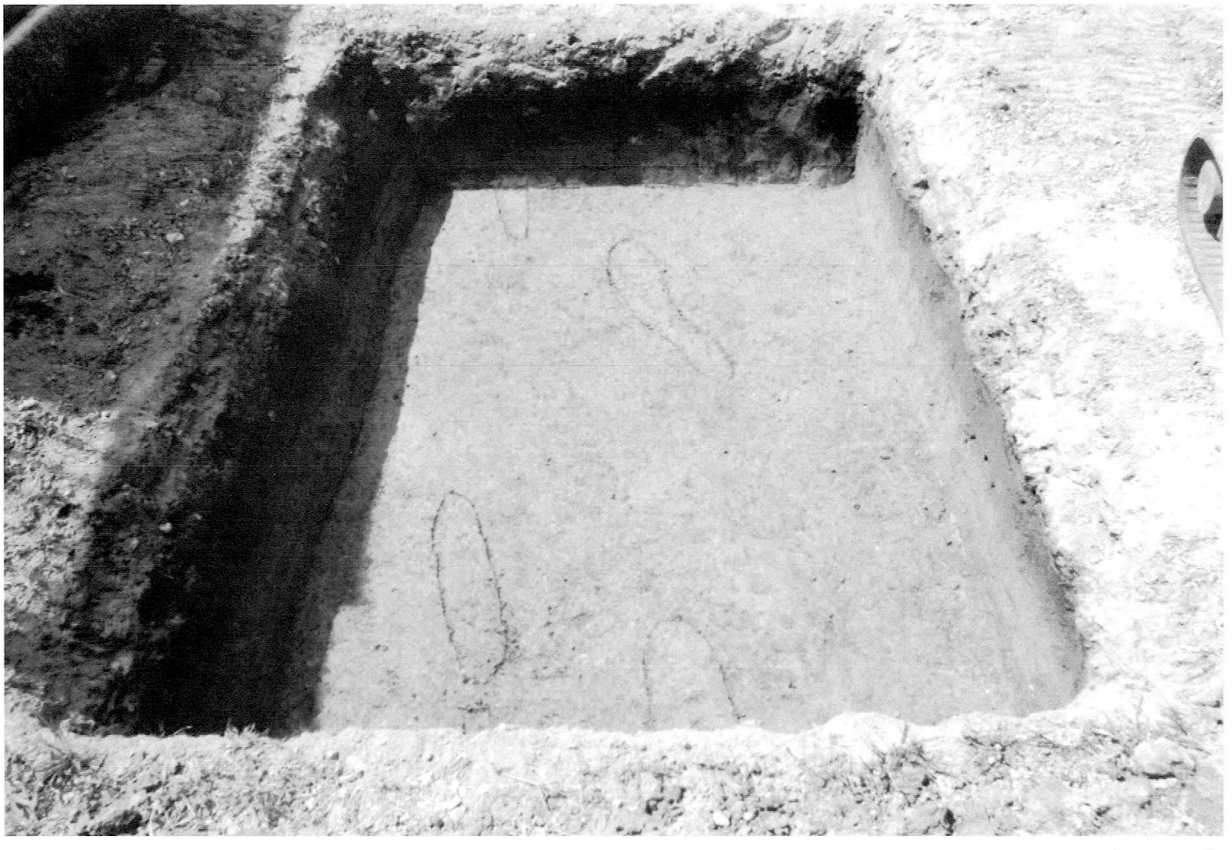
1．2007－63区　完掘状況　（北より）



2．2008－19区　完掘状況　（東より）



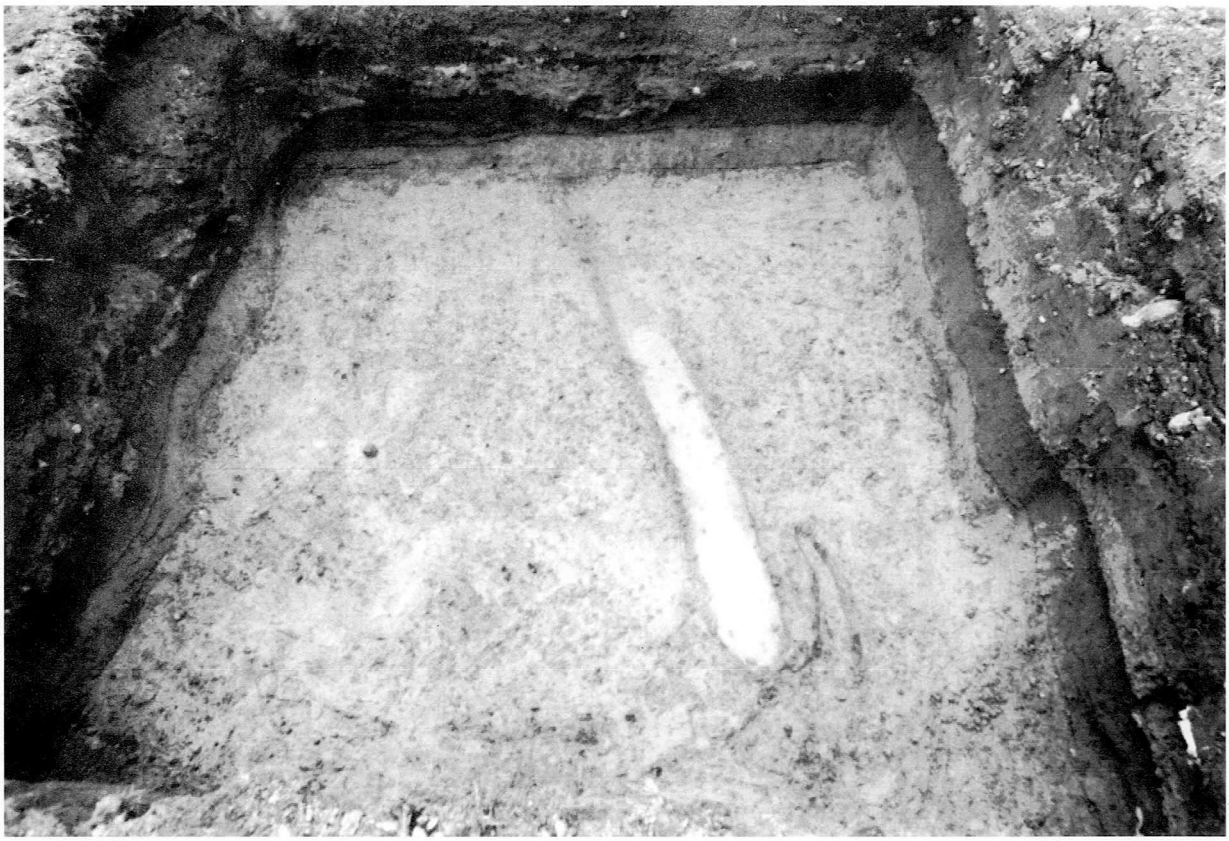
1．2008－16区　調査区1　完掘状況　（北より）



2．2008－16区　調査区2　遺構検出状況　（西より）

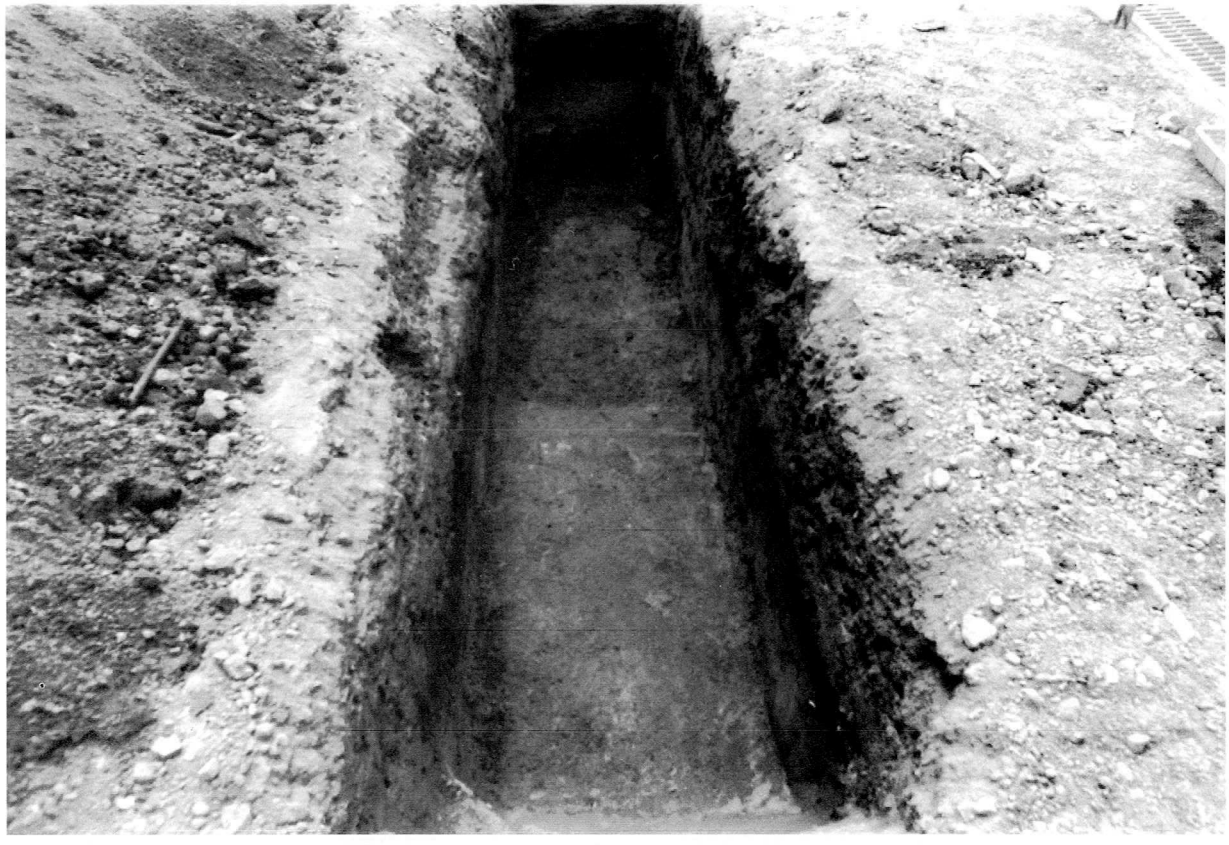
図版6　麻生中遺跡（2008－22区）

1．2008－22区　調査区1　完掘状況　（東より）

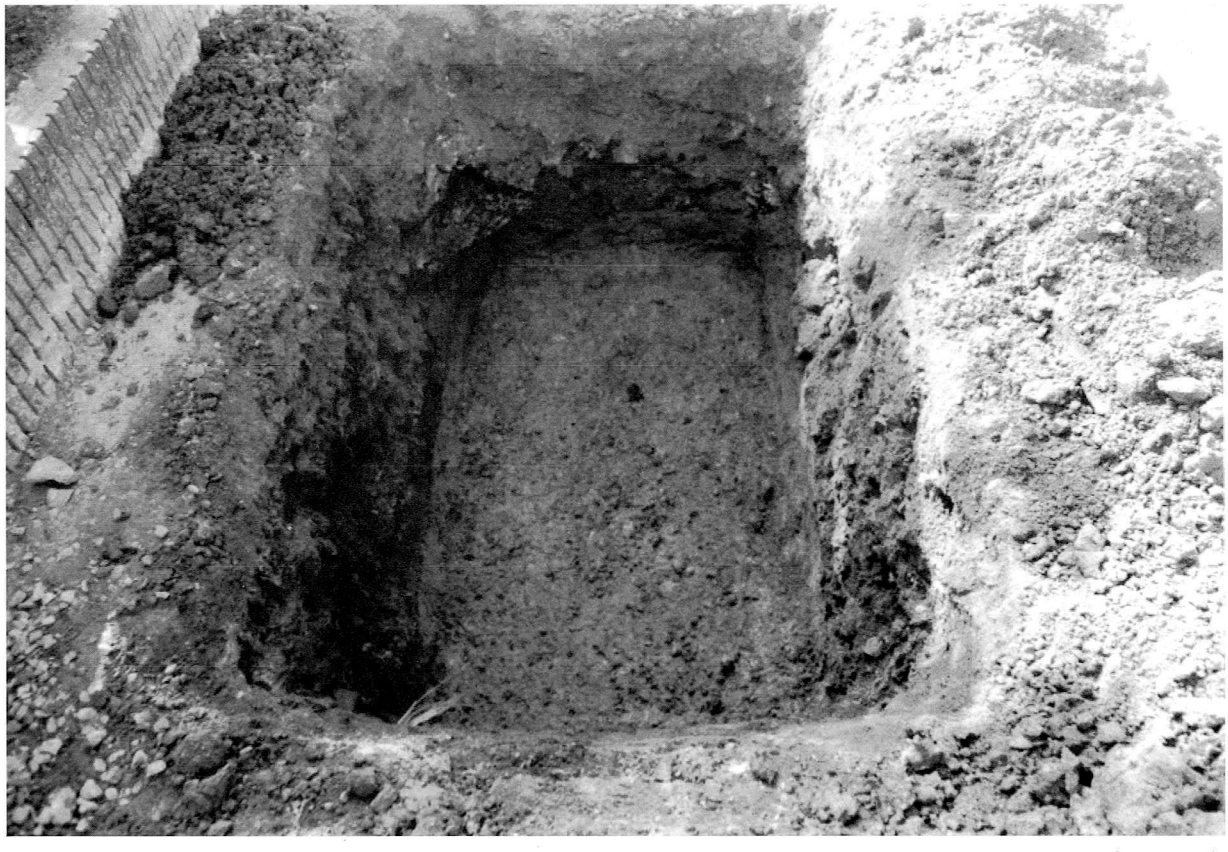


2．2008－22区　調査区2　完掘状況　（東より）

図版7　沢西遺跡（2008－14区）・名越遺跡（2007－54区）

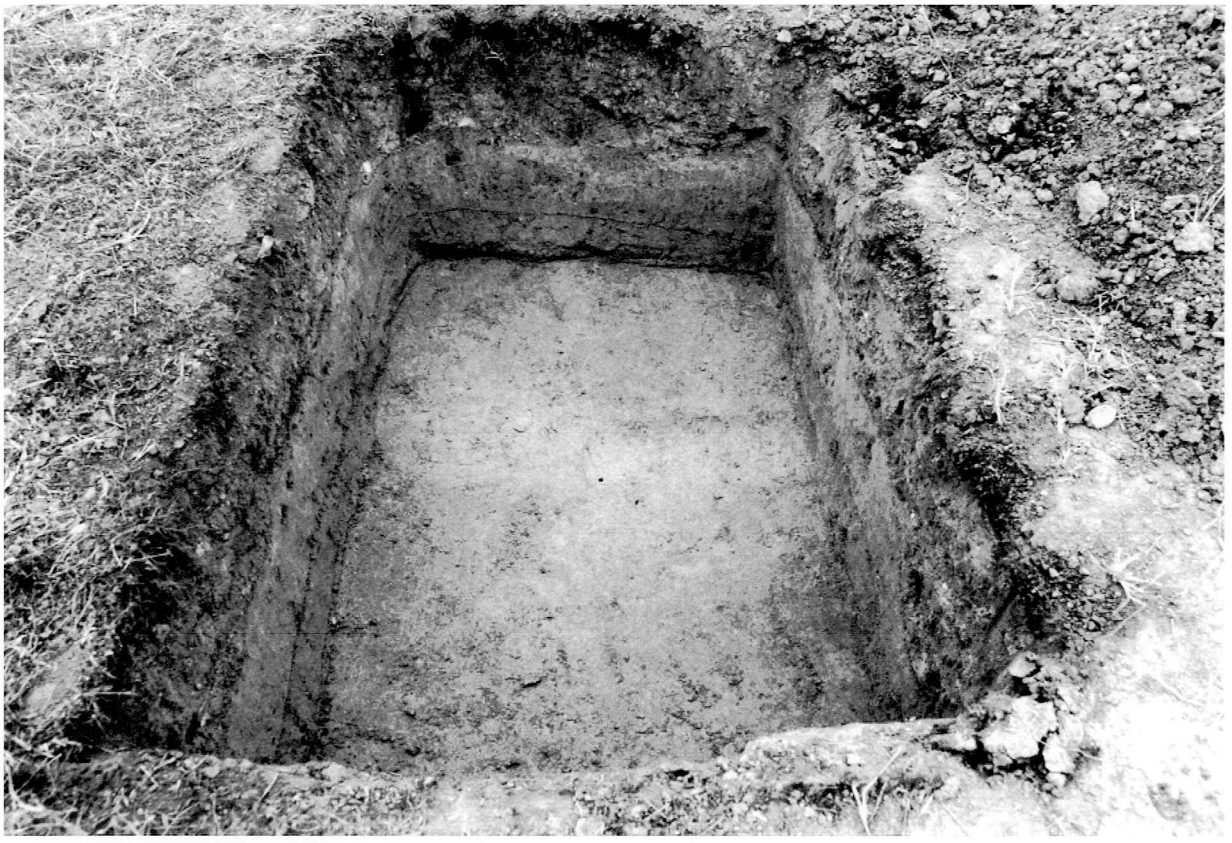


1．2008－14区　完掘状況　（西より）



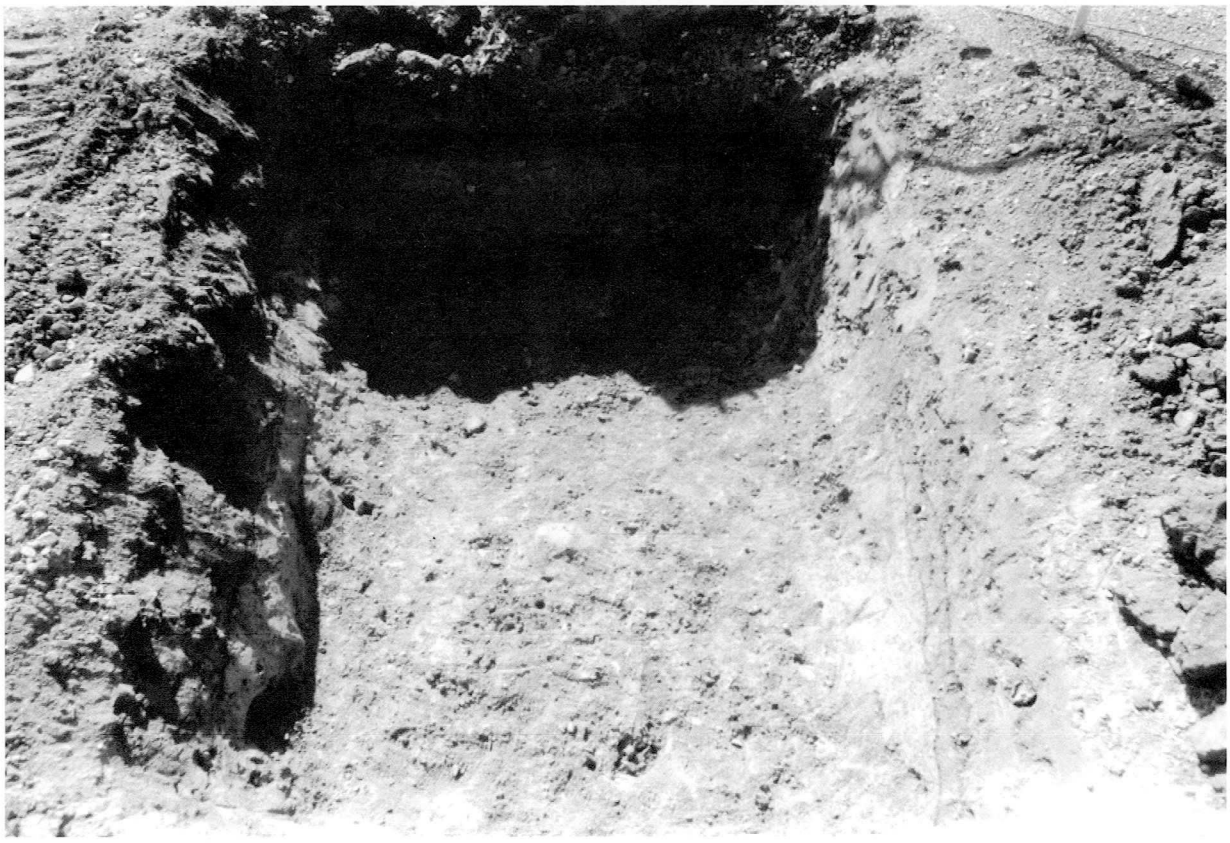
2．2007－54区　完掘状況　（南より）

図版8　森B遺跡（2008－28区）



1．2008－28区　調査区1　完掘状況　（西より）

2．2008－28区　調査区2　完掘状況　（西より）



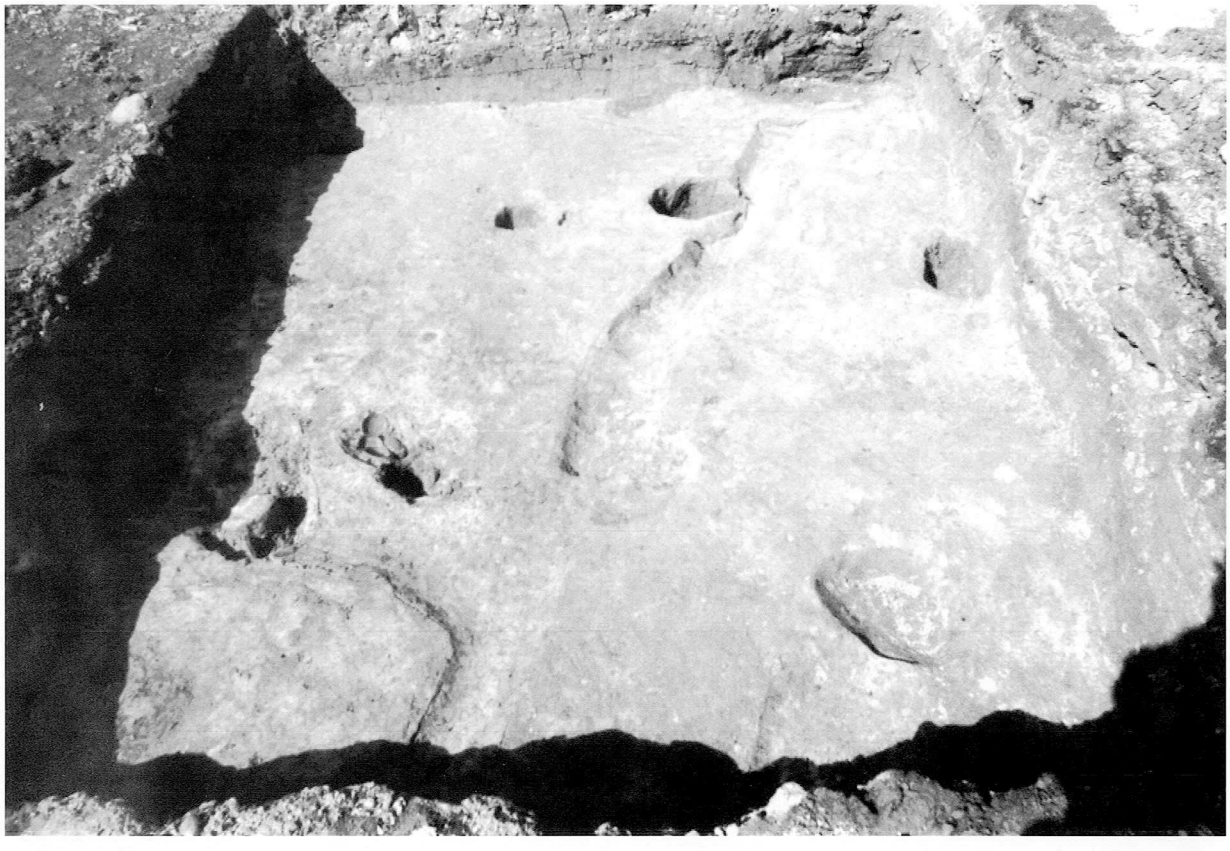
1．2007－57区　完掘状況　（西より）

2．2008－4区　遺構検出状況　（南より）

図版10　木積観音寺跡（2008－9区）

1．2008－9区　SD－1断面　（西より）

2．2008－9区　第2面　遺構検出状況　（北より）



1．2008－17区　完掘状況　（南より）

2．2008－17区　SK－1　土器出土状況　（東より）

図版12　長楽寺跡（2007－58区）

1．2007－58区　調査区1　遺構検出状況　（北より）

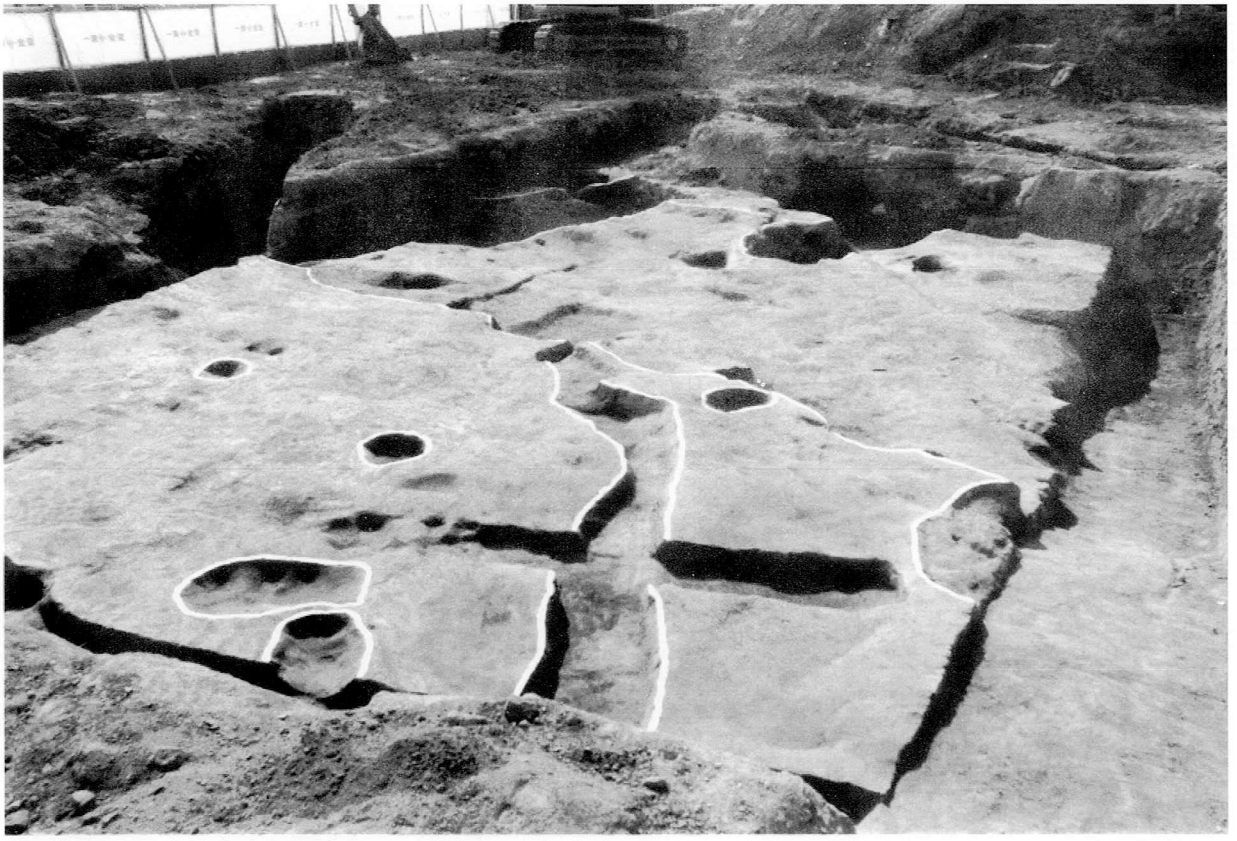
2．2007－58区　調査区1　SD－1完掘状況　（南より）

1．2007－58区　調査区２　遺構検出状況　（西より）

2．2007－58区　調査区２　完掘状況　（東より）

図版14　長楽寺跡（2007－58区）

1．2007－58区　調査区2～4　全景　（北より）



2．2007－58区　調査区2　完掘状況　（北より）

1．2007－58区　調査区2　SD－58完掘状況　（西より）

2．2007－58区　調査区2　SD－58断面　（東より）

図版16　長楽寺跡（2007－58区）

1．2007－58区　調査区2　SD－58・60　検出状況　（北より）

1．2007－58区　調査区3　SD－60断面　（西より）

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告　第77集

貝塚市遺跡群発掘調査概要31

発　行　日　　平成21年(2009)3月31日
編集・発行　　貝塚市教育委員会
　　大阪府貝塚市畠中1丁目17番1号
印　　刷　　摂河泉文庫